



青森中央学院大学 (青森県)

日本語学習と日本文化・地域交流が体験できる研修プログラム

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

青森中央学院大学は青森市にある大学で、1998年に開学しました。日本で初めて「経営法学部」という学部を作り、時代のニーズに合わせた教育を行っています。また、大学院には地域マネジメントを学ぶコースや研究所もあります。

2014年には看護学部ができ、看護師や保健師を育てるための教育も始めました。

青森中央学院大学は、専門的な仕事に必要なスキルを身につける教育や、国際交流、地域社会への貢献に力を入れています。特に国際交流や地域貢献の活動は国際交流センターを中心に行い、高く評価されています。

さらに、ラーニングコモンズやアクティブラーニング室、学生ラウンジなど、学生が学習しやすい環境も整えています。



春のキャンパス

大学内の桜並木は4月中旬頃に満開になります。

大学図書館

静かなサイレントスペースと、グループワークを想定したラーニングコモンズに分けられます。



② 国際交流の実績

海外機関との協定校数：57校・1機関

うち大学間交流協定数：24校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数98人、日研生1人

2024年：留学生数84人、日研生1人

2023年：留学生数79人、日研生1人

④ 地域の特徴

青森市は、本州の一番北にある青森県の県都で、約26万人が住んでいます。

市内には青森空港があり、東京や大阪など日本国内のほか、韓国の仁川や台湾の台北とも飛行機で行けます。また、新幹線の新青森駅があり、青森から東京まで簡単に移動できます。

自然が豊かで四季を楽しむことができます。農林水産業も盛んで、特に「青森のりんご」は世界でも有名です。人々は優しく親切で、物価も安いので、留学する人にとっても生活しやすい環境です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

(1) 日本語の学習等

日研生は、経営法学部に所属し、自分の能力に応じた日本語クラスで学習します。日本語クラスは、初級から上級までレベル別で編成されています。

日本語以外にも経営法学部で開講されている専門科目を受講することができ、研究テーマに応じて経営系や法学系の学習をすることもできます。

また、日本語担当教員が指導教員として指導にあたるため、きめ細かな指導を受けることができます。

(2) 日本文化・体験研修等

年間約50回の国際交流活動・日本文化体験活動・農林水産業体験活動・ホームステイ等のプログラムを用意しており、地域の人々と様々な交流活動を行うことができます。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・ J L P T : N2以上に合格していること。
- ・ 日本語又は英語で会話が可能であること。

⑤ 達成目標

- ・ コース修了者はN1程度のレベルに達すること。
- ・ 文法力、会話表現、言葉遣い、ヒアリング等が適切に使えること。
- ・ 日本語・日本文化研修の結果をまとめ、レポート等にまとめること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬 ～ 2027年8月下旬
（在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月：渡日（2025年は9月16日～17日）

オリエンテーション・健康診断

10月：青森体験（奥入瀬溪流・十和田湖紅葉狩り）
地域交流体験（農家民泊）

11月：青森体験（りんご狩り）
語学講座（日本人学生への母国語紹介）

12月：学生交流会（クリスマスパーティー）

1月：日本文化体験（雛人形飾りつけ）
定期試験

4月：入学式・学生会館合同歓迎会
青森体験（観桜会）

5月：学生交流会
語学講座（日本人学生への母国語紹介）

7月：日本文化体験（七夕飾り作り）
留学生全体ガイダンス

7月下旬～8月上旬：定期試験、研究レポート完成

8月：青森体験（ねぶた祭）
日本語・日本文化研修修了
修了式

8月下旬：帰国（2025年は8月29日）



⑨ コースの修了要件

- ・日本語必修科目3単位、選択科目8単位を取得すること。
- ・指導教員による演習を修了すること。
- ・日本文化・青森文化体験や地域交流体験に5回参加すること。
- ・必要単位を取得し、体験活動も行い、到達目標に達した場合、修了証書（日本語・英語）を発行します。
- ・成績証明書を発行することができます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

シラバス

<https://upass.aomoricgu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>

授業は全て日本語で行われます。

1) 研修・コース科目の特徴

日研生はN2レベルあるいはN1レベルの文法・語彙を学ぶクラス（日本語Ⅲ、学術日本語）、レポートの書き方を学び実際にレポートを作成するクラス（日本語Ⅳ）、ビジネス日本語のクラスのうち2つを前・後学期で1つずつ履修することになります（最初に取り組むクラスはプレースメントテストの結果によります）。日研生として書く最終レポートは日本語担当教員がきめ細やかに指導します。



2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（時間数・内容）

- ・日本語Ⅲ 90時間（N2程度の文法/読解/作文）
- ・日本語Ⅳ 60時間（読解/作文/レポート作成）
- ・学術日本語 90時間（N1程度の文法/読解/レポート作成）
- ・ビジネス日本語 30時間（仕事上で使う日本語を学ぶ）

II) 選択科目（時間数・内容）

前学期開講科目

- ・暮らしと地域 30時間（地域学習）
- ・日本の政治と経済 30時間（日本の政治と経済を学ぶ）

後学期開講科目

- ・暮らしと経済 30時間（地域学習）
- ・日本の歴史と文化 30時間（日本の歴史と文化を学ぶ）
- ・日本の社会 30時間（日本の社会を学ぶ）

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等に参加出来る科目及びその具体的な内容

インターンシップや地域密着型の課題探求科目があります。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

選択科目の「暮らしと地域」と「暮らしと経済」は共修科目です。

日本人学生が「国際交流学生サポーター」として、留学生を支えます。特に最初の半年は1人1人に担当の「パディ」がつくので、青森での生活や授業に関する不安も解消されるでしょう。



⑪ 指導体制

日本語担当教員：田中 真寿美 准教授

里見 文 講師

日本語教育スタッフ：兒玉 晴代

日本文化・体験研修等担当教職員：

藤巻 啓森 国際交流センター長・教授

寺井 和夫 国際交流担当次長

金川 利江子 国際交流課課長

留学生チューター：同じ国の先輩留学生が日常生活上の指導・助言を行います。

国際交流学生チューター：日本人学生との交流や行事等を通して有意義な留学生活になるよう支援します。

■宿 舎

日研生はキャンパス内にある学術交流会館に入寮することができます。学部生は全員2人部屋を使用します。

学術交流会館紹介動画

https://youtu.be/5_IBeRiXme8?si=QEzt51GuI09NdFBR

研修中の寮費として、渡日前に1年分、外国送金してもらいます。

入館金： 54,500円 寮費(年間)：330,000円



●学術交流会館

2DK（ルームシェア）：個室設備

エアコン（冷暖房）、ベッド・洋服ダンス、机・イス・本棚、コルクボード・ゴミ箱、スリッパ・防災セット、カーテン、インターネット環境

2DK（ルームシェア）：共有設備

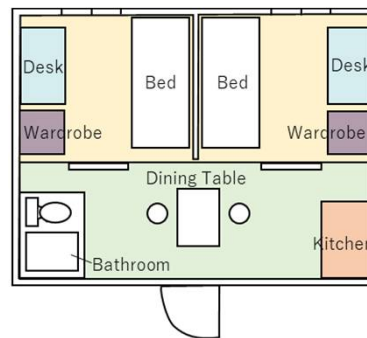
ユニットバス、シャワーカーテン、シューズボックス、キッチン（IHヒーター付）、食卓テーブルセット

会館共用設備

カフェテリア（1階）、コインランドリー（各階）

備考

- ・門限等、集団生活に必要な規則があります。
- ・各自の部屋は自分で清掃します。洗濯機、石油ストーブの持込みは厳禁です。
- ・調理には備え付けのIHヒーターを使用してください。ガスコンロの使用は厳禁です。
- ・電気代は日研生負担です。
- ・水道・ガス・インターネット料金の請求はありません。



■修了生へのフォローアップ

修了生にはFacebookなどを利用し、大学の情報を提供、双方向の交流を継続しています。

また、海外同窓会のメンバーとして、帰国後も交流を進めています。



■問合せ先

<担当部署>
青森中央学院大学国際交流課

住所：〒0300132
青森県青森市大字横内字神田12番地

TEL：+81-17-728-0131（代表）
FAX：+81-17-738-8333
Email：international@aomoricgu.ac.jp

<ウェブサイト>
青森中央学院大学：
<https://www.aomoricgu.ac.jp/>

青森中央学院大学国際交流センター
公式 Facebook：
<https://www.facebook.com/acguiec>
公式 You Tube：
<https://www.youtube.com/channel/UCmbBt90406n1qLh35gu6ISg>



慶應義塾大学 (東京都)

別科・日本語研修課程では、初期の段階から、受講者が将来専門分野において研究を行う際に有用な日本語の運用能力を養成することを重視している。また、受講者の留学目的に合わせて、多様な学習段階・科目を用意している。

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

1) 特色と歴史

慶應義塾は、啓蒙思想家として歴史上名高い福澤諭吉によって1858年に創設された日本で最も古い歴史を誇る私学である。私学として最初の大学部が1890年に設けられ現在に至っている。1898年には幼稚舎が設置され、以来、小学校から大学までの一貫教育制度を拡充、発展させてきた。

慶應義塾は、大学とその他関連校により構成されており、伝統的に塾長が大学長を兼ねる。

学部名：

文学部、経済学部、法学部、商学部、医学部、理工学部、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、薬学部

大学院名：

文学研究科、経済学研究科、法学研究科、社会学研究科、商学研究科、医学研究科、理工学研究科、経営管理研究科、政策・メディア研究科、法務研究科、健康マネジメント研究科、薬学研究科、メディアデザイン研究科、システムデザイン・マネジメント研究科

2) 学生数 (2025年5月1日現在)

学部生：28,839名、大学院生：5,025名

3) 教員数 (非常勤含む) (2025年5月1日現在)

6,577名

② 国際交流の実績

- 1) 受入 外国人留学生在籍数 2,196名 (2025年5月1日現在)
2) 派遣 学生国外留学生数 426名 (2024年5月1日現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2025年度	10名 (EJ 8名、DJ2名)
2024年度	11名 (EJ 10名、DJ1名)
2023年度	10名 (EJ 10名、DJ0名)

EJ: 大使館推薦

DJ: 大学推薦

④ 地域の特徴

三田は都心の港区にあり交通の便が良く活気がある。三田キャンパスは創立以来の歴史と伝統があり、落ち着いて勉強できる環境。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

直接教授法による日本語教育を行っており、初級から上級まで多様な学習段階・コースが設けられているため、各学習者の必要や興味に応じてプログラムを組むことが可能である。専門分野との連携を重視しており、将来学習者が専門分野で研究を行う際に有用な日本語力を初期の段階から養成するように配慮している。上級学習者向けには日本文化に関する知識を深めるための日本文化科目を設け、各学部・研究科の科目等履修も一部認めている。自由科目として国際センター設置の英語による講座も履修することができる。

③ 受入定員

180人 (内、日研生定員は、EJ10名程度、DJ3名程度)

④ 受講希望者の資格、条件等

高等学校卒業生ならびにこれと同等以上の資格があると認められる者。大学で専門分野の教育を受けている者、あるいは既に受けた者が望ましい。

⑤ 達成目標

本課程では、幅広い学習者に対応できるカリキュラムを提供しているので、大学における専門分野の能力が高く、日本語学習に対する強い動機を持つ学生であれば、入学時の日本語能力のレベル、過去の日本語学習経験の如何は問わない。

学習段階は1から9まで分かれている。学期の初めに実施される学習段階分けテストの結果によって、学習段階が決定する。それぞれの学習段階の対象者と目標は下記のとおりである。

<学習段階1~4>

初級学習者を対象とし、日常生活に必要な会話と読み書きができるような日本語力の獲得を目標とする。

<学習段階5~6>

中級学習者を対象とし、話し言葉・書き言葉の両面において一般的な日本語の表現・理解ができるような日本語力の獲得を目標とする。

<学習段階7～8>

一般的な日本語の表現・理解に十分な日本語能力を有する者を対象とし、大学の講義の聴講、教科書・参考書の読解、レポート・答案の作成等に必要な日本語力の獲得を目標とする。

<学習段階9>

高度な日本語力を有する者を対象とし、専門分野の講義の理解、口頭発表や討論、専門書の読解、論文作成等に必要とされる専門的な日本語力の獲得を目標とする。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年9月上旬 ～ 2027年7月下旬
(2026年9月22日 ～ 2027年9月21日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年7月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月上旬：渡日
9月中旬：秋学期オリエンテーション
9月下旬：秋学期授業開始
1月下旬：秋学期期末試験
3月下旬：春学期オリエンテーション
4月上旬：春学期授業開始
7月中旬：春学期学期末試験
7月下旬：帰国
※留学生支援団体による各種活動（随時）
ウェルカムパーティー、スピーチコンテスト、交流会、見学会、伝統文化紹介、日本語クラブ、バザー等

⑨ コースの修了要件

修了の要件は、1年以上在学して異なる二つの学習段階において各学期に合格し、合計14単位以上を修得することとする。
合格の要件は、各自の学習段階に合った総合科目、技能別科目、日本文化科目、特化コースセット科目を組み合わせ、1学期につき1週間に7科目7単位以上あるいは週14時間相当の科目を履修し、単位を修得することとする。修了要件を満たした者には修了証が授与される。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

基幹コースと特化コースに分かれている。日研生も一般の別科生と同じ授業を受講する。

<基幹コース>

別科・日本語研修課程の中心となるコース。

<特化コース>

書きことばを中心とする専門的な日本語の習得を目標として設けられたコース。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

総合科目・・・「読む・書く・聞く・話す」の四技能を総合的な活動を通して身に付ける科目。
技能別科目・・・「読む・書く・聞く・話す」の四技能をそれぞれに特化して身に付ける科目。
日本文化科目・・・日本の社会や文化に関する知識を深める科目。上級学習者を対象とする。
特化コースセット科目・・・特化コース専用の科目。

II) 選択科目

日本語による授業のほかに、自由科目として、国際センターに設置されている英語で行われる科目を履修することもできる。また、JLPT N2相当以上の学生には、学部・大学院開講の授業科目の一部を1学期に2科目4単位まで履修することが認められている。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容
なし

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
なし

⑪ 指導体制

指導体制（関係教員）の状況（2025年10月1日現在）

1) 専任教員

日本語・日本文化教育センター所長	安藤 広道
日本語・日本文化教育センター副所長	木村 義之
学習指導主任	大場 美穂子

2) 協力教員

専任教員	8名
非常勤講師	41名

3) 事務責任者

学生部事務長 寺島 博之

4) 個別指導の実施

各レベルにレベルコーディネーターを置き、個々の学生の学習指導・生活相談等に常に対応できるようにしている。また、学習指導主任による学生への指導・支援体制も整えられている。

■宿 舎

慶應義塾大学では、留学生のための宿舎を一部用意している。ただし、部屋数に限りがあり、希望者多数の場合は抽選となる。
家賃75,000円～110,000円程度、通学時間60分程度。

<過去3年間の日研生の宿舎入居状況>

日研生はほぼ、慶應義塾大学の宿舎または国際交流会館（公的宿舎）に入居している。

■修了生へのフォローアップ

毎学期終了後、別科事務局から修了生にアンケートを行い、進路状況の把握に努めている。進路は多様であるが、もっとも多いのは「母国で就職」、「日本の大学院に進学」、「日本で就職」の3つである。多くの別科修了生がそれぞれの専門分野で更なるキャリアアップを果たしている。

■問合せ先

<担当部署>

慶應義塾大学学生部国際交流支援グループ
(文部科学省(国費)奨学金留学生担当)
住所 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
TEL +81-3-5427-1608 (直通)
FAX +81-3-5427-1638
E-mail ic-mext@adst.keio.ac.jp

<ウェブサイト>

慶應義塾大学国際センターホームページ：
<http://www.ic.keio.ac.jp/>

慶應義塾大学ホームページ：
<https://www.keio.ac.jp/ja/>

日本語・日本文化教育センターホームページ：
<http://www.cjs.keio.ac.jp/>

多様なバックグラウンドを持つ教員・学生と共に、東京の中心地で学ぶ

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

グローバル教育における日本の先駆者

上智大学には毎年世界中から1,500人以上の留学生がやってきます。すべての学部学科が同じキャンパスに集約されているため、多種多様なバックグラウンドを持つ教員・学生とともに、グローバルな環境で学ぶことができます。

幅広い教学プログラム

上智大学は、60年以上にわたって英語によるプログラムを提供してきました。学生は、日本の強みでもあるビジネスと経済、科学技術、環境研究を英語で学ぶことができます。また、留学生向けにさまざまな日本語コースを提供しています。

日本の中心地、東京

上智大学は、東京の中心地に位置しています。伝統と現代の要素が混ざり合うユニークな文化を体験する貴重な機会が得られる、政治的および経済的なハブ都市である「東京」で日本を体感することができます。

教育プログラム・統計

学部： 9学部 29学科
研究科： 10研究科 28専攻 1プログラム
学生数： 14,000～15,000名
※約1,500名が外国人学生
(世界80カ国以上)
常勤教員数： 約550名
(外国籍教員約100名)

② 国際交流の実績

上智大学には世界中に約400校の個性豊かな交換留学協定校・学術交流協定校があります。
2025年10月1日現在の協定校数：87カ国411大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2025年：留学生数1,861名 日研生4名
2024年：留学生数1,839名 日研生3名
2023年：留学生数1,858名 日研生1名

④ 地域の特徴

上智大学は、東京の中心部、千代田区にあり交通の便がよい一方で、皇居・迎賓館も近いことから周辺は比較的静かで、勉強する環境が整っています。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
- b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

★国際教養学部の授業はすべて英語で開講

英語で開講される科目を履修することで、学際的な日本研究に取り組むことができます。

開講科目の分野：

比較文化学、国際経済・経営学、社会科学

※外国語による授業数は、全授業科目の約20%である1,600科目以上

★日本語科目は習熟度別による少人数クラス

授業開始前に日本語プレースメントテストを実施し、その結果に応じて、クラスのレベルを決定します。



③ 受入定員

8名
大使館推薦5名
大学推薦3名

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語・日本文化に関する分野を専攻として専攻していること

渡日時に大学での日本語・日本文化学習期間が通算1年以上であること

日本語能力試験（JLPT）N2以上を保持していること

英語を母語としない場合は、下記いずれかの英語能力証明を保持していること

- ・TOEFL iBT 79点以上
- ・IELTS 6.0以上
- ・TOEIC 730点以上
- ・TOEFL PBT/ITP 550点
- ・ケンブリッジ英検 CPEまたはCAE

本学での留学期間が1年間であること

⑤ 達成目標

日本語科目：

言語教育研究センターが開講する日本語科目を履修することで、日本語能力を向上させる。

専門科目：比較文化学、国際経済・経営学、社会科学

国際教養学部等で英語にて開講される各専門分野を専攻しながら、学際的に日本を研究し、知識を深める。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年9月下旬 ～ 2027年7月下旬
(2026年9月21日 ～ 2027年9月20日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年7月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月中旬 渡日（通常9月17日前後）
オリエンテーション
9月下旬 秋学期授業開始
11月 ソフィア祭
12月 クリスマス行事
1月末 秋学期授業終了
4月 春学期授業開始
7月上旬 上智・南山大学競技大会（上南戦）
7月末 春学期授業終了、帰国

⑨ コースの修了要件

日本語科目または、日本事情・日本文化に関する授業を8単位以上履修すること。コース修了後、成績証明書が発行されます。

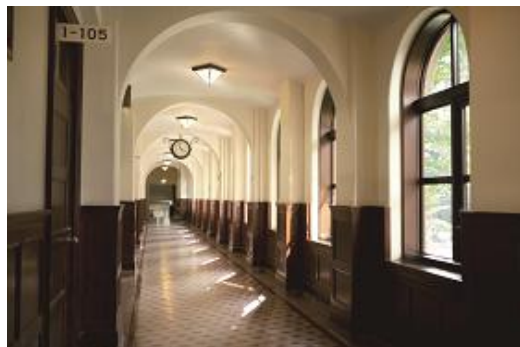
⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

すべて英語による履修が可能。日本語のみならず、人文学、社会学、経済学等の分野で日本に関する科目を幅広く学ぶことができます。

2) 研修・コース開設科目

- I) 必須科目なし
- II) 選択科目



【国際教養学部科目目録】（週2コマ、1コマ100分）

比較文化分野

日本美術論入門、日本美術概論、越境日本美術論、視覚文化とジェンダー、日本美術史演習、比較美術史特講、日本美術史特講、日本文学入門、日本文学概論、比較文学研究、日本文学研究、アジア文学研究、日本文学特講、日本演劇特講、日本の宗教、哲学・宗教学研究、仏教学概論、比較宗教学、宗教と象徴 等

社会科学分野

日本社会入門、日本研究概論、現代日本社会、社会と政治、日本文化史、日本女性史、日本近代史、日本外交史概論、日本史演習、日本の政治、日本の政治演習 等

経済・経営学分野

現代日本経済論、日本経営論、日本の人事労務管理論、経営学概論、国際金融論、金融論、比較経営学特講、国際マーケティング論、国際貿易論 等

※日本語で授業を受けられるレベルの学生は、外国語学部をはじめとする他学部開講の日本語言語学や日本語教育に関する科目を履修することができます。

【日本語科目】

Regular Track (週4～5コマ、1コマ100分)

初級：初級文法と漢字400字を学びます。「話す・聞く・読む・書く」の4技能を養います。

中級：中級レベルの文法と漢字800字を学ぶ。初級と同様に4技能の養成に力を入れています。

上級：新聞・雑誌・論説など生教材が用いられ、各段階に応じて量的、質的難易度が異なります。

Intensive Track (週10コマ、1コマ100分)

日本語学習のみを目的とするものが対象。日本語初級後半から上級までの4レベルがあります。

その他 (週2コマ、1コマ100分)

専門日本語：上級の学習者は、ビジネス日本語、アカデミック日本語、英和翻訳のコースを取ることができます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

学外へのエクスカージョンなどを取り入れた科目もあります。詳細については、下記シラバス検索をご参照ください。

シラバス検索：

<https://piloti.sophia.ac.jp/jpn/academic/syllabus/>

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

国際教養学部では正規生と同じ授業を受講することで、共修の環境が提供されています。

⑪ 指導体制

責任教員：

国際教養学部長 STRECHER Matthew Carl教授

事務責任者： グローバル教育推進室長 吉野朋恵

指導体制：

入学時にアドバイザーを決め、本学での勉学が効果的にできるよう履修計画等を指導します。

■宿 舎

交換留学生を斡旋している大学の提携寮を紹介します。

提携寮の契約に際しては、一定期間分の宿舍料金の前払いが求められる場合があります。



■修了生へのフォローアップ

・ 本学卒業生として現地ソフィア会（同窓会）に参加することが可能です。

・ 本学大学院への進学を希望する学生については、相談を受付けています。

・ 帰国後、メールにて修了後進路アンケート調査を行います。

■問合せ先

＜コース・カリキュラムに関する問合せ＞

国際教養学部事務室

TEL： +81-3-3238-4004

＜国費・事務手続に関する問合せ＞

グローバル教育推進室 国費留学生担当

住所： 〒102-8554

東京都千代田区紀尾井町7-1

TEL： +81-3-3238-4090

E-Mail: mext-co@sophia.ac.jp

＜ウェブサイト＞

国際教養学部：

<https://fla.sophia.ac.jp/>

上智大学：

<http://www.sophia.ac.jp/>



大東文化大学 (埼玉県)

充実した日本語教育、書道をはじめとする日本文化が学べます

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

大東文化大学は、中国古典の研究と漢学を振興する機関として、1923年に開学しました。2023年に創立100周年を迎えました。

創立以来、東洋の文化と西洋の文化を融合した新しい文化の創造を目指しています。

豊かな人格の形成に努め、併せて国際的な視野を持ち、世界の文化の進展と人類の幸福の実現に寄与できる人材を育成しています。

本学では、少人数制クラスできめ細かな学習指導や支援を受けることができます。また日本人学生によるチューター制度や交流会も行っています。

2) 学部・学生数等 (2025年5月1日現在)

学部：文学部、経済学部、外国語学部、法学部、国際関係学部、経営学部、スポーツ・健康科学部、社会学部

大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科、外国語学研究科、アジア地域研究科、経営学研究科、スポーツ・健康科学研究科

教員数：専任教員数 : 326名
非常勤講師数 : 646名
学部学生数 : 12,020名
大学院生数 : 145名

② 国際交流の実績

大学間協定校数：28カ国 118大学
外国人留学生数：436名

(2025年5月1日現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2025年：留学生数 436人、日研生 2人
2024年：留学生数 460人、日研生 1人
2023年：留学生数 434人、日研生 5人

④ 地域の特徴

東松山キャンパスは、緑豊かな大自然に囲まれた魅力あふれるキャンパスです。東京ドーム約6個分の広大な敷地に最新の施設や設備が整っています。緑あふれるキャンパスで落ち着いて学び、充実した学生生活を過ごすことができます。

板橋キャンパスは都心に位置し、モダンなデザインと快適な学びの環境が両立しています。カフェテリアなど落ち着ける場所をはじめ、パソコン166台を常設した図書館など、理想的な学習環境が整っています。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語プログラムを中心に研修を行います。日本人学生と会話活動する授業があり、日本語の授業で学んだことを実践につなげていきます。また日本文化・社会について学び、自分の専門分野の理解を深め、将来、日本との架け橋となる人材の育成を目的としています。

チューター制度や部活などで日本人学生と積極的に交流し、授業だけでなく大学生活全体を通して日本を学び、経験を積んでいきます。

③ 受入定員

6名 (大使館推薦5名、大学推薦1名)



④ 受講希望者の資格、条件等

- ・自国の大学で日本語・日本文化関連分野を専攻していること
- ・教育機関で1年以上日本語を学習し、日本語学習への強い動機・熱意を有すること
- ・日本と母国の架け橋となる人材としてふさわしいこと
- ・留学の目的が明確であること

⑤ 達成目標

- ・効果的に日本語を運用できるようになる
- ・文法を含む「読む・書く・聞く・話す」の総合的な日本語力、またはアカデミック・ジャパニーズを習得する
- ・日本の文化・社会への理解を深める
- ・自身の専門分野の知見を深め、帰国後の学習のさらなる充実につなげる

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年8月下旬～2027年8月下旬

※オリエンテーション参加のため、在籍開始前の8月下旬に来日できることが採用の条件
（在籍期間：2026年9月1日～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年9月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

8月下旬	渡日（2025年は8月27日） オリエンテーション プレースメントテスト
9月中旬	秋学期開始
9月下旬	ウェルカムパーティー
10月下旬	留学生国内研修旅行
11月	大学祭
11月～12月	近隣の学校との交流授業
翌年1月	秋学期終了
翌年2月	日本文化体験イベント
翌年4月	春学期開始
翌年7月	留学報告会
翌年8月	春学期終了
翌年8月下旬	帰国

⑨ コースの修了要件

学期初めに指定された科目を含め、各学期7科目以上（年間14科目以上）を履修すること。履修科目はC評価以上で単位認定の対象とし、修得した科目・単位は成績証明書に明記する。14科目以上の単位を修得した者には修了証書を発行する。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の概要・特色

来日後に日本語プレースメントテストを実施し、レベル別クラスを編成します。日本語の授業と日本人学生との共修授業を組み合わせ、発信力・課題解決力・異文化理解を実践的に身につけます。

日本語科目は「集中日本語」と「発展」の2コースに分かれています。教室外での課外活動や地域交流の機会も用意されています。

2) 研修・コース開設科目

(I) 必修科目

●集中日本語コース（7科目/週×15週）

初級から中上級までの5レベルに分けてクラスを編成しています。

「集中日本語演習1A/B1～3A/B8」「グローバルスタディ5/6」から指定された7科目を履修し、4技能を総合的に強化しながら「使える日本語」を身につけます。

●発展コース（3科目/週×15週）

JLPT N2で120点以上の者が対象です。アカデミック日本語を習得する「理解とコミュニケーションA/B」「日本語文章表現A/B」「資料・文献読解A/B」を必修とします。このコースの履修者は、発展コース・内容コース・学部科目から合計7科目以上を履修します。



(II) 選択科目

●内容コース（各1科目/週×15週）

JLPT N2以上で履修できます。
「現代日本の諸相A/B」「日本の政治・経済・社会A/B」「日本の文化・芸術A/B」「日本の歴史A/B」を通じて、文化・社会・歴史、異文化理解について学びます。
※開講状況は年度により異なります。

●学部科目

学部所定の日本語力要件を満たし、担当教員の許可を得たうえで、各学部の開設科目を履修できます。専門分野を日本語で学ぶことができます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

以下の課外活動を予定しています。

- ・近隣の中学校、高等学校での交流授業
- ・地域国際交流協会主催行事への参加
- ・各種日本語スピーチコンテストへの参加
- ・一般家庭へのホームステイ（1泊2日）

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・現代日本の諸相 B ※使用言語：日本語
日本人学生とグループを組み、ビジネス場面を想定した課題解決型ディスカッションを行い、成果を発表します。

・グローバルスタディ1, 5, 6
※使用言語：日本語/英語
日本人学生とペア/グループを組み、身近な話題を通じて自己理解と日本理解を深める会話活動を行います。

・グローバルスタディ2, 3, 4, 7, 8
※使用言語：英語
日本や世界の文化・歴史について、日本人学生とともに学びます。



⑪ 指導体制

責任者：国際交流センター所長

指導体制：

専任教員（教授） 正宗 鈴香

特任教員（准教授） 大河原 尚

非常勤講師 11名

国際交流センター職員 10名



■宿 舎

留学中は大学寮に滞在することができます。
※ドーマー鶴ヶ島が満室の場合別の寮を紹介します。

【ドーマー鶴ヶ島】

定員：32名

設備：バス、トイレ、冷蔵庫、机、椅子、ベッド、
エアコン、インターネット（キッチン、洗濯機、乾
燥機、電子レンジは共用）

費用：月6万円～

（別途光熱水費が約5,700円支払が必要）

※8月上旬までの退寮が必要、以後は各自で滞在先
確保が必要

オプション：

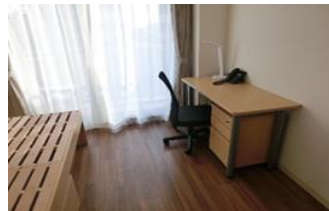
・食事（朝・夕 ※土日は除く）月額19,360円

・寝具レンタル 半年20,020円、1年31,900円

※金額が変更になる可能性があります。

支払い方法：

来日前に1学期分の室料30万円（5カ月分）の寮費
の請求書をメールでお送りします。来日前に海外送
金で支払いを行ってください。困難な場合は、柔軟
に対応します。



■修了生へのフォローアップ

日本の大学・大学院への進学や企業への就職を希望
する修了生に対し、個別相談およびアドバイスを実施
しています。



■問合せ先

<担当部署>

大東文化大学国際交流センター（板橋）

住所 〒175-8571

東京都板橋区高島平1-9-1

TEL +81-3-5399-7323

FAX +81-3-5399-7823

E-mail dbustudents@jm.daito.ac.jp

大東文化大学国際交流センター（東松山）

住所 〒355-8501

埼玉県東松山市岩殿560

TEL +81-493-31-1536

FAX +81-493-31-1535

E-mail dbuexchange@jm.daito.ac.jp

<ウェブサイト>

大東文化大学 ホームページ

<https://www.daito.ac.jp/>

大東文化大学 国際交流センター ホームページ

https://www.daito.ac.jp/international_exchange/

英語版（English）

<http://www.daito.ac.jp/english/>



法政大学 (東京都)

日本語能力が高い学生は、法政大学の正規授業も履修可能

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

法政大学は、1880年東京法学社として設立され、140年の歴史を持つ日本で最も歴史と伝統のある私立大学の1つです。現在は15学部、15大学院研究科、3インスティテュート、そして2専門職大学院を擁し、学生数は約30,000人、教職員数は約1,200人、3キャンパス(市ヶ谷、多摩、小金井)を有する、日本屈指の総合大学です。本制度での留学生は、東京の中心に位置する市ヶ谷キャンパスで学びます。

学部：法、文、経済、社会、経営、国際文化、人間環境、現代福祉、キャリアデザイン、グローバル教養、スポーツ健康、情報科学、デザイン工、理工、生命科学

大学院：人文科学、国際文化、経済学、法学、政治学、社会学、経営学、人間社会、情報科学、政策創造、デザイン工学、公共政策、キャリアデザイン学、理工学、スポーツ健康学、連帯社会インスティテュート、総合理工学インスティテュート、国際日本学インスティテュート

専門職大学院：法務研究科、イノベーション・マネジメント研究科



② 国際交流の実績

- ・海外交流協定大学 : 50ヶ国・地域、270大学・機関
- ・交換留学生の受入れ : 毎年160名程度 (28ヶ国・地域)

※28ヶ国・地域：アメリカ、イギリス、イタリア、ウズベキスタン、ベルギー、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、スイス、スウェーデン、スペイン、台湾、香港、チェコ、デンマーク、ドイツ、フランス、ウクライナ、シリア、カザフスタン、マレーシア、タイ、インドネシア、メキシコ、ロシア、中国、韓国

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2025年：留学生数 1,717人、日研生 4人
2024年：留学生数 1,110人、日研生 5人
2023年：留学生数 1,082人、日研生 4人

④ 地域の特徴

法政大学市ヶ谷キャンパスは、東京の中心の千代田区に位置し、交通の便が非常に良い場所にあります。新宿や渋谷などの主要エリアへも電車で15分で行くことができます。近くには、神楽坂や神社など、江戸時代から続く歴史ある観光スポットがあり、大学から徒歩でアクセスすることが出来、大都会の雰囲気とは異なる日本の伝統的な雰囲気に触れることができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
- b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語運用能力の向上だけでなく、日本の文化・社会などに関する知識と、その実践的な経験を積んだ学生を育成することを目的としています。またコース修了後のキャリアに繋がる学びも重視し、キャリアパスへのフォローアップも行います。

1997年から交換留学生の受入を開始し、正規留学生含め12,000人以上の受入を行っています。日本語学習では、読解・文法・会話だけでなく、アカデミック日本語やビジネス日本語など多様な科目を学ぶことが可能です。各セメスター開始時に行われる日本語プレースメントテストにおいて、日本語能力検定2級(N2)レベル相当と判断される学生については、全ての正規授業を日本人学生と共に履修することも可能となります。授業内では、日本人学生とのアクティブラーニングも積極的に実施しています。

日本語授業はレベル1(初級)～レベル7(上級)で構成され、週に3～5コマ(1コマ100分)の授業をほぼ毎日履修することで、日本語運用能力を高めていくことを目的としており、敬語やビジネス文書、JLPT対策、大学院進学対策などキャリアアップを目的とした授業も実施しています。

日本語授業には日本人学生がTAとして関わり、授業のサポートを行います。

(2ページに続きます)

日本語で行われる全ての正規授業が履修可能であり、15学部15研究科3インスティテュートの幅広い分野の専攻から、文学、歴史、経営、地域、若者など様々な視点で、日本の文化・社会に関する授業を履修することが可能となります。

授業内では、積極的にグループディスカッション、ディベート等が行われ、教室内で日本人学生との交流も盛んに行われています。

さらに、英語で行われる留学生向けの日本文化・歴史・経済・経営等の授業も履修可能であり、他国から来た留学生や日本人学生と共に授業を受けることができます。

授業以外においても、東京六大学野球観戦、茶道体験、三曲体験、歌舞伎鑑賞教室など、数多くの日本文化体験の機会を設けており、それらのイベントについても留学生だけではなく、留学生との交流に関心が高い日本人学生も多く参加しています。



③ 受入定員（予定）

4名（大使館推薦 2名、大学推薦 2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

1. 在籍大学において、日本語・日本文化に関する分野を主専攻として専攻し、日本語を少なくとも1年以上学んでいること。
2. 英語での授業の履修を希望する場合で英語が母語ではない学生はIELTS6.0、TOEFL-iBT76点または同等レベルの英語力を持っていることが望ましい。
3. 日本と母国の架け橋人材に相応しい人物。

⑤ 達成目標

日本文化・社会について日本語もしくは英語での授業や文化体験を通じて深く理解するとともに、日本語で資料を読み、レポートを書き、プレゼンテーションできるように日本語運用能力を高めることを目標としています。



⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月中旬 ～ 2027年8月下旬
（在籍期間：2026年9月16日～2027年9月15日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月（11ヵ月）

⑧ 研修・年間スケジュール

9月上旬：渡日
9月中旬：秋学期開始
オリエンテーション
交換留学生歓迎パーティー
Buddyマッチング
10月：東京六大学野球観戦
11月：学園祭
12月：国際交流懇親会
冬季休暇
1月：秋学期定期試験
学期末パーティー
2月：春季休暇
4月：春学期開始
5月：東京六大学野球観戦
6月：日本語スピーチコンテスト
7月：春学期定期試験
学期末パーティー
8月下旬：サマーセッション
報告会および修了式
帰国

⑨ コースの修了要件

各学期6科目以上の履修を必須としており、内日本語科目は各学期につき3～5科目程度を履修する必要があります。また、1年後の報告会には必ず参加して頂き、1年間の学習成果とそれを活かした今後の進路や予定を発表して頂きます。1年間で12科目以上の単位を修得すると修了要件を満たすことになり、修了証を授与します。同時に、成績証明書も発行しますので、在籍大学での単位認定に活用することができます。



⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴
レベル1～レベル7の日本語科目の中で、学生自身のレベルに所属する日本語科目を履修することができます。高い日本語能力を持つ留学生については、日系企業就職や日本の大学院進学に備える上級科目も用意されており、15学部15研究科3インスティテュートの幅広い分野の専攻から、様々な視点で日本の文化・社会に関する授業を履修することができます。



（3ページに続きます）

2) 研修・コース開設科目

必修科目はありませんが、各学期6科目の履修が必要です。日本語科目は各学期につき3～5科目程度の履修をする必要があり、代表的には以下のよう
な科目があります。

ビジネス日本語・・・ビジネス敬語の基礎
能力試験対策N1・・・日本語能力試験N1を目指す
日本の社会と文化・・・日本の伝統文化を体験
日本社会とメディア・・・作品を通じた討論
アカデミック日本語・・・大学院進学対策

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

「フィールドワーク・課題研究」では、社会調査の基礎を学んだ上で、文献学習でテーマを設定し、日本文化・社会に関するフィールドワークを行います。また、留学生向けの授業では、企業や工場の見学を行っており、日本の産業をより身近に感じられる機会を与えています。これらの授業は、日本人学生と外国人留学生が協働して行う体験型授業であり、様々な異文化交流ができることが魅力です。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

文学、歴史、経営、地域、若者など様々な視点で、日本の文化・社会に関する授業（「地域文化論」「日本の文化と社会」）では、日本人学生とのグループディスカッション、ディベート等が行われます。日本語授業では、日本人学生をボランティアとして授業のサポートを行っており、対話を通じより実践に近い環境を提供しております。

⑪ 指導体制

1) 責任教員

ESOPディレクター
Stevie SUAN（グローバル教養学部准教授）

2) 事務責任者

伊藤 昌子（グローバル教育センター事務部長）
海外経験が豊富な教員・事務職員が連携し、学生の教学面・生活面でのサポートを英語と日本語にて行っています。

■宿 舎

大学から40～60分程度の通学圏内に宿舎があり、本プログラムによる留学生は、朝食と夕食付の個室の場合（提供日は日曜・祝日を除く月曜日から土曜日に限る）、最大年間室料614,400円（1ヶ月51,200円、洗面台付き部屋タイプ）（2025年10月現在）で入居することが可能です。

加えて、毎月のインターネット代の支払いが必要です。また、寝具等を有料でレンタルすることもできます。部屋はエアコン・ベッド・机付の個室で、バス・トイレは共同です。洗濯機、掃除機は無料で使用することができます。

寮費は学期ごとの支払いが必要で、渡日前に海外送金で秋学期分の前納が必要となりますので、ご留意ください。

イメージ図：



■修了生へのフォローアップ

法政大学では2014年に初めて日本語・日本文化研修留学生の受入れを行いました。ESOPでの交換留学生の受入れ実績は20年以上の歴史があり、過去に在籍した留学生にはその後、本学の大学院に進学したり、また母国の外交官になった人もいます。そのため、帰国後にも進学や就職についての相談や、必要となる証明書の発行などのサポートも充実しています。



■問合せ先

<担当部署>

法政大学グローバル教育センター事務部

住所：〒102-8160

東京都千代田区富士見2-17-1

TEL： +81-3-3264-9315（直通）

FAX： +81-3-3264-4624

Email： ic@hosei.ac.jp

<ウェブサイト>

法政大学ホームページ

<https://www.hosei.ac.jp/>

法政大学グローバル教育センターホームページ

<https://www.global.hosei.ac.jp/>

法政大学ESOPホームページ

<https://www.global.hosei.ac.jp/en/students/esop/>



早稲田大学(東京都)

自分の興味・レベルに合わせて総合的に日本語を学ぶことができる

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

早稲田大学は、大隈重信侯によって、近代日本の人材育成を目的として1882年に創立されました。創立当時は東京専門学校と称していましたが、1902年に早稲田大学になりました。

早稲田大学は創立以来、「学問の独立」「実用の教育」「模範的国民の養成」を教育方針とし、その教育方針は現在も早稲田大学の教育と研究の根本となっています。

本校は、2022年10月に創立140周年を迎えました。現在、13の学部、大学院の21研究科と附属機関等があります。専任教員約2,000人(2025年8月時点)、学生約50,000人(2025年5月時点)が所属しています。本学は、歴史と伝統、教育・研究の水準の高さ、卒業生の活躍などから、日本で有数の私立大学として評価されています。留学生の受け入れも、古くから積極的にすすめて、毎年、多くの留学生を受け入れており、現在では約5,500人(2025年5月時点)の留学生が学んでいます。

学部・研究科

学部：政治経済学部、法学部、文化構想学部、文学部、教育学部、商学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部、社会科学部、人間科学部、スポーツ科学部、国際教養学部

大学院：

政治学研究科、経済学研究科、法学研究科、文学研究科、教育学研究科、商学研究科、基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科、環境・エネルギー研究科、情報生産システム研究科、社会科学研究科、人間科学研究科、スポーツ科学研究科、国際コミュニケーション研究科、アジア太平洋研究科、日本語教育研究科、法学研究科法曹養成専攻(法科大学院)、会計研究科(会計大学院)、

教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院)、経営管理研究科(ビジネススクール)

② 国際交流の実績

大学間協定数 506 (2025年6月時点)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2025年：留学生数5,475人、
日研生(大使館推薦)10人(大学推薦)2人
2024年：留学生数5,491人、
日研生(大使館推薦)10人(大学推薦)4人
2023年：留学生数5,549人、
日研生(大使館推薦)10人(大学推薦)9人

④ 地域の特徴

早稲田大学は、東京の中心にあり、交通の便がよく食事や買い物にもとても便利な場所にあります。大学近くの駅周辺や早稲田通り沿いは商業の拠点で、活気のある街です。また、古くから学生の街としての歴史があり若者が多く集まります。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語教育プログラムは、早稲田大学日本語教育研究センターが運営している1年間または半年間の日本語集中学習プログラムです。

様々なニーズを持つ学生の自己実現を助けるために、それぞれの学生の日本語能力に合わせて8段階のレベルに分かれています。学生はそれぞれ自分の興味・レベルに合わせて日本語を学ぶことができます。

科目は、総合的に日本語の基礎的な能力向上を目指す科目と、日本文化や日本社会などのテーマを勉強する科目があります。学生は、自分の学習目的や目標にあったカリキュラムを自由にデザインできるようになっています。

日本語教育研究センターでは、留学生が自律的に日本語学習ができるように「わせだ日本語サポート」という学習支援室を設けています。1対1でセッションを行っており、学習計画の相談や、日本語に関する質問、学習リソースの質問などができます。このほか、「日本語学習ポートフォリオ」も用意しております。学習目標やスケジュールをポートフォリオに書いて振り返ることで、計画的に自分の日本語学習が進められます。

③ 受入定員

20名(大使館推薦10名、大学推薦10名)

④ 受講希望者の資格、条件等

1. 早稲田大学と協定のある大学・大学院に在籍している者で、留学終了まで本属大学に在籍すること。（大学推薦のみ）
2. 成績優秀な者。日本語科目だけでなく、他科目の成績も選考の際に考慮される。
3. 日本語学習への意欲が高い者。

⑤ 達成目標

修了単位である26単位を修得すること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年10月上旬 ～ 2027年7月下旬
（在籍期間：2026年9月21日～2027年9月15日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年7月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月中旬： 渡日
9月下旬： 秋学期科目登録開始
10月上旬： 秋学期授業開始
11月上旬： 早稲田祭（文化祭）
1月下旬： 秋学期授業終了
2月下旬： 秋学期成績発表
3月中旬： 春学期科目登録開始
4月上旬： 春学期授業開始
7月下旬： 春学期授業終了
7月下旬～： 帰国
8月下旬： 春学期成績発表

本学の学生交流プログラムを企画・運営しているICC（異文化交流センター）主催の活動に参加したり、早稲田大学の学生サークル等に参加して、日本人学生や地域の人々と交流することができます。

⑨ コースの修了要件

年間26単位（原則として各学期13単位）以上の日本語科目を履修し、合格の成績を取得した者を修了者とみなし、修了証書を授与します。成績証明書については、申し込みをした方に発行します。

単位認定が必要な場合は、予めご自身で所属大学に確認してください。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

日本語教育研究センターの日本語授業には、総合日本語、テーマ科目があります。また、科目は初級の1レベルから超上級の8レベルまであり、自分の興味やレベルに合わせて日本語を学ぶことができます。

- ・ 年間26単位（半期13単位）修得できるように自分で時間割を組みます。
- ・ 各科目は週あたりの授業回数によって与えられる単位数が異なります。授業は各学期14週行われます。
- ・ 日本語教育研究センター設置科目は、原則として各学期週1回100分の授業で1単位が与えられます。
- ・ 授業は全て日本語で行われます。

2) 研修・コース開設科目

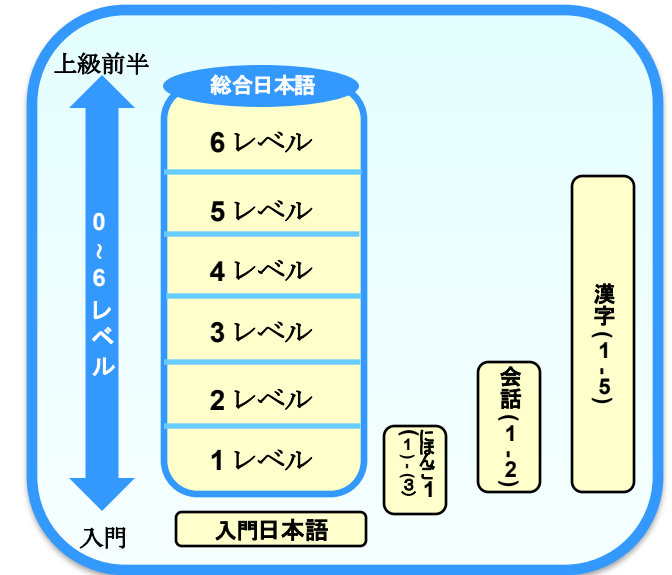
I) 必須科目

必須科目はありません。必要単位数を修得できるように自分で時間割を組みます。

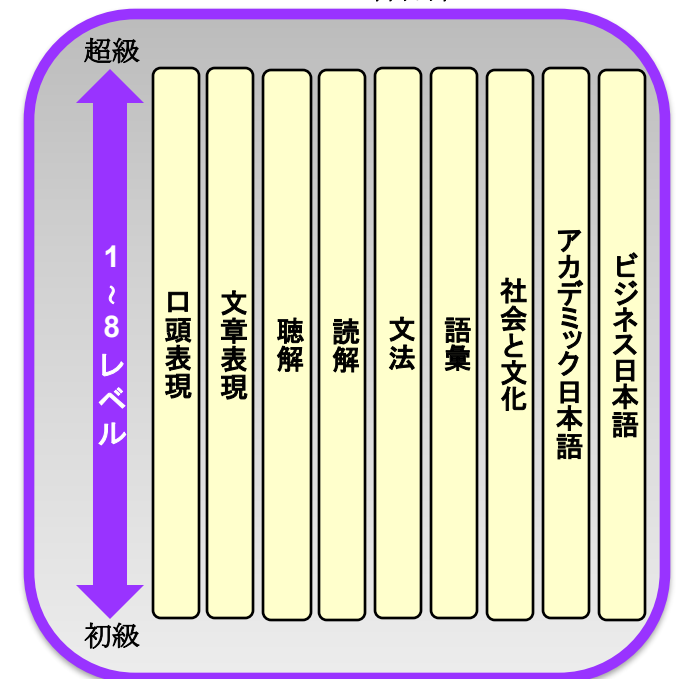
II) 選択科目（13コマ、約21.7時間/週あたり）

総合科目群もしくは、テーマ科目群から修了要件を満たすよう年間26単位（半期13単位）修得できるよう選択することが可能です。

総合科目群



テーマ科目群



3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

- ・ 日本社会や文化についての理解を深めるため、学内外の施設を訪問、見学する科目もあります(テーマ科目)。また、本学の学生が日本語授業ボランティアとして活躍しているクラスも多数あり、授業の中でも本学学生と交流することができます。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

- ・ 日本人学生が日本語学習ボランティアとして、いくつかの日本語科目において、留学生の日本語学習をサポートします。
- ・ 希望者は日本人学生を対象としている他学部で開講されている授業を履修することもできます。(制限あり)
※他学部の科目を履修して修得した単位は修了要件には含まれません。

⑪ 指導体制

【所長】	
柳田 直美	教授
【教務主任】	
寅丸 真澄	教授
木下 直子	准教授



教授	1名
准教授	1名
准教授(任期付)	10名
助教	1名
助手	1名
非常勤講師	35名
インストラクター(非常勤)	115名

■ 宿 舎

(大使館推薦)

大学を通じ寮を紹介し(渡日前の宿舍費の支払あり。入館費用として約200,000円、海外送金にて必要)※物件によって異なります。

(大学推薦)

早稲田大学留学生寮を紹介し(渡日前の宿舍費の支払なし。ただし、留学生寮以外の宿舍滞在となる場合、渡日前の宿舍費の支払あり)。留学生寮は希望者多数の場合抽選となり、選外の場合は提携寮等他の滞在先を紹介しています。

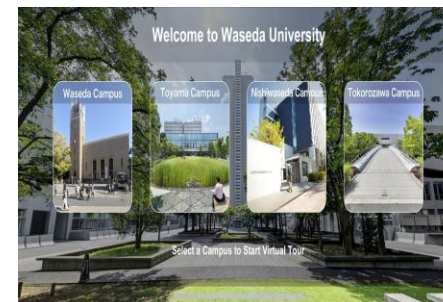
■ 修了生へのフォローアップ

- 日本語教育プログラム修了後の進路
- ・ 母国等(日本以外の国)の在籍大学に戻る
 - ・ 母国等(日本以外の国)で就職
 - ・ 日本の大学・大学院に進学
 - ・ 日本で就職



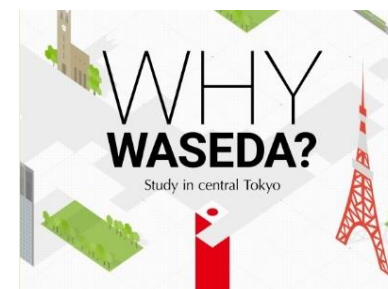
■ その他

- ・ VRキャンパスツアー



<https://www.waseda.jp/top/about/work/campus-tours>

- ・ WHY WASEDA?



<https://www.waseda.jp/inst/whywaseda/>

■ 問合せ先

早稲田大学 日本語教育研究センター

住所: 〒169-8050
東京都新宿区西早稲田 1-7-14
TEL: +81-3-3208-0477 (直通)
FAX: +81-3-3203-7672
Email: cjl-ao@list.waseda.jp
URL: <https://www.waseda.jp/inst/cjl/>
<ウェブサイト>
早稲田大学日本語教育研究センター:
<https://www.waseda.jp/inst/cjl/>
早稲田大学留学生センター:
<https://www.waseda.jp/inst/cie/>



創価大学 (東京都)

Discover your potential –創価大学で「自分力」を発見し、世界平和と新しい文化の創造の担い手として、巣立ちゆくことを心から願っています！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

創価大学は、世界の平和と人類の幸福を実現するために活動する池田大作博士によって、

「人間教育の最高学府たれ」

「新しき大文化建設の揺籃たれ」

「人類の平和を守るフォートレスたれ」

との建学の精神を掲げ、1971年に創立された。

以来、創価大学は「学生第一の大学」を基本理念として、充実した教育課程とサポート体制を整えている。特に国際交流を重視し、留学生用の奨学金や宿舎は充実しており、63カ国・地域から多数の留学生が集っている。

学部では経済学部、経営学部、法学部、文学部、教育学部、理工学部、看護学部に加え、2014年度には新たに国際教養学部が開設された。また大学院では、経済学研究科、法学研究科、文学研究科、教育学研究科、工学研究科、法科大学院、教職大学院を擁する総合大学として国際性も豊かに最高レベルの教育を提供している。平和のために貢献できる人材の輩出を目指してきた創価大学は、既に多くの卒業生が世界各国で活躍している。

学部生 : 5618 名

大学院生 : 428 名

専任教員 : 338 名

学部数 : 7学部 (経済経営、法、文、教育、理工、看護、国際教養)

大学院 : 6研究科 (経済、法、文、国際平和、教育、理工)

専門職大学院 : 法科大学院、教職大学院

※統計は2025年5月1日現在

② 国際交流の実績

交流協定大学数 : 72カ国・地域、276大学 (2025年10月現在)

留学生数 : 662名 (2025年10月現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2025年 : 留学生数 670人、日研生 1人

2024年 : 留学生数 670人、日研生 4人

2023年 : 留学生数 628人、日研生 9人

④ 地域の特徴

八王子市は20以上の大学等が集まる学園都市である。自然が豊かな街としても有名で、市内の「高尾山」はミシュランガイドにも紹介され、世界中から多くの観光客が訪れている。歴史的にも古くから発展した八王子は戦国時代には「滝山城」「八王子城」などを舞台に多くの合戦が行われた。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

初級前期、初級後期、初中級、中級前期、中級後期、上級の6段階のコースがあり、学生は自分の日本語能力に合った科目を履修することができる。また、英語で授業が行われる科目の履修を主目的とする学生が日本で生活する上で必要な日本語を学ぶ「日本語基礎」、非漢字圏学生のための「初級漢字」、大学院受験・進学準備のための「日本語 V・VI」を設けている。日本語のほか、日本の伝統文化も学ぶことができる。

③ 受入定員

大使館推薦10名、大学推薦0名



④ 受講希望者の資格、条件等

- 外国において大学等の高等教育課程に在籍した経験を持っている者
- 以下いずれかの資格を持っている者
 - ・日本語能力試験N5レベル以上を持つ者
 - ・TOEFL iBT71点以上の英語能力を持つ者
 - ・英語を母語として使用している者
- ⑧の渡日スケジュールで来られる者
- 9月の奨学金を10月にまとめて支給しても心配のない者

⑤ 達成目標

初級前期：初歩的な日本語（文法・漢字・語彙）を習得し、簡単な会話、平易な文の読み書きができる。JLPT（日本語能力試験）N5合格レベルを目指す。

初級後期：基本的な日本語を習得し、日常の会話、簡単な文の読み書きができる。JLPT（日本語能力試験）N4合格レベルを目指す。

初中級：初級の日本語を十分に習得し、自然な日常会話、書き下ろした文の読み書きができる。JLPT（日本語能力試験）N3合格レベルを目指す。

中級前期：やや高度の日本語を習得し、一般的な事柄についての会話、読み書きができる。JLPT（日本語能力試験）N2合格レベルを目指す。

中級後期：社会生活上、あるいは大学教育を受けるのに必要な日本語能力を身につける。JLPT（日本語能力試験）N1合格レベルを目指す。

上級：大学教育、あるいは大学院教育を受けるのに十分な日本語能力を身につける。JLPT（日本語能力試験）N1高得点を目指す。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年9月上旬 ～ 2027年7月下旬
（在籍期間：2026年9月1日～2027年7月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年9月 ～ 2027年7月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月2～3日：渡日
9月4日～：秋学期オリエンテーション
9月11日：秋学期授業開始
10月上旬：大学祭
11月：一日研修旅行
12月23日～1月8日：年末年始休業
1月4日：留学生新年会
1月26日：秋学期授業終了、期末定期試験
1月30日～3月31日：学年末休業

4月上旬：春学期オリエンテーション
授業開始

6月：一日研修旅行

7月下旬：春学期授業終了、期末ガイダンス
期末定期試験、春学期修了式

8月上旬：退寮、帰国

⑨ コースの修了要件

創価大学の授業は、各学期とも15週間＋試験で単位を認定する。

日本語科目：

週90分（1コマ）×15週 で2単位

講義・演習：

週90分（1コマ）×15週 で2単位

一週間に7コマ以上履修し、単位が認定された学生には、受講証書と成績証明書を発行する。もし在籍期間証明書や修了証明書が必要な場合は国際課に申請すること。成績証明書の発行時期は以下の通り。秋学期の成績は、学期修了後2月上旬に発行予定。春学期の成績は、学期修了後8月上旬に発行予定。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

各レベルごとに右表の日本語科目が設置されている。

クラス	科目	単位	コマ	時間
ES	日本語基礎	3	3	67.5時間
E0 初級前期	日本語総合入門	5	5	112.5時間
	日本語演習入門	1	1	22.5時間
	日本語聴解入門	1	1	22.5時間
	日本語文章表現入門	1	1	22.5時間
	日本語口頭表現入門	1	1	22.5時間
	初級漢字	1	1	22.5時間
E1 初級後期	日本語総合Ⅰ	5	5	112.5時間
	日本語演習Ⅰ	1	1	22.5時間
	日本語聴解Ⅰ	1	1	22.5時間
	日本語文章表現Ⅰ	1	1	22.5時間
E2 初中級	日本語総合Ⅱ	5	5	112.5時間
	日本語文法Ⅱ	1	1	22.5時間
	日本語読解Ⅱ	1	1	22.5時間
	日本語聴解Ⅱ	1	1	22.5時間
E3 中級前期	日本語文法Ⅲ	1	1	22.5時間
	日本語文章表現Ⅲ	1	1	22.5時間
	日本語読解ⅢA	1	1	22.5時間
	日本語読解ⅢB	1	1	22.5時間
	日本語聴解ⅢA	1	1	22.5時間
	日本語聴解ⅢB	1	1	22.5時間
	日本語口頭表現ⅢA	1	1	22.5時間
	日本語口頭表現ⅢB	1	1	22.5時間
E4 中級後期	日本語文法Ⅳ	1	1	22.5時間
	日本語文章表現Ⅳ	1	1	22.5時間
	日本語読解ⅣA	1	1	22.5時間
	日本語読解ⅣB	1	1	22.5時間
	日本語聴解ⅣA	1	1	22.5時間
	日本語聴解ⅣB	1	1	22.5時間
	日本語口頭表現ⅣA	1	1	22.5時間
	日本語口頭表現ⅣB	1	1	22.5時間
E5 上級	日本語読解ⅤA	1	1	22.5時間
	日本語読解ⅤB	1	1	22.5時間
	日本語聴解ⅤA	1	1	22.5時間
	日本語聴解ⅤB	1	1	22.5時間
	日本語表現ⅤA	1	1	22.5時間
E5 学部	日本語表現ⅤB	1	1	22.5時間
	日本語Ⅰ	2	2	45時間
	日本語Ⅱ	2	2	45時間
	日本語Ⅲ	1	1	22.5時間
	日本語Ⅳ	1	1	22.5時間
共通	日本語Ⅴ	1	1	22.5時間
	日本語Ⅵ	1	1	22.5時間
共通	日本伝統文化	2	1	22.5時間

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目 (○コマ数、時間数) ・内容
表の日本語科目 (クラスにより異なる)

II) 選択科目 (○コマ数、時間数) ・内容
科目一覧から日本語以外の科目を選択し、履修することができる。

必修科目と選択科目を足して週に7限以上履修すること。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

- ・創価学園 (小学校、中学校、高等学校) にて、交流授業を実施している。(各学期1回)
- ・八王子市の小中学校でボランティアの交流授業を実施している。(不定期)

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

協同学習方式の授業については下記URLでシラバスを検索のこと。

<https://plas.soka.ac.jp/csp/plas/syllabus11.csp>

⑩ 指導体制

日本語・日本文化教育センターの教員が担当する。

日高 吉隆 准教授 (センター長)
倉光 雅己 准教授
明父 桃子 助教
中家 久瑠美 助教
水島 亜美 助教

■宿 舎

- ・本学の留学生寮に入寮すること。途中の退寮や部屋の変更は不可。寮以外の居住は不可。
- ・宿舍費は以下の通り。渡日前に請求書を送付するので前納のこと。支払方法は1学期ごとの分割払い、2学期分を一括払いの2種類のみ。
- ・入寮費は最初の学期に舎費と一緒に支払うこと。
- ・舎費には水道光熱費が含まれる。
- ・食費は自己負担。

男子寮	入寮費	舎費 (1学期分)	舎費 (2学期分)
宝友寮	¥50,000	¥184,000	¥368,000
滝山国際寮	¥50,000	¥224,000	¥448,000
女子寮	入寮費	舎費 (1学期分)	舎費 (2学期分)
秋桜寮	¥50,000	¥198,000	¥396,000
サンフラワーホール	¥50,000	¥208,000	¥416,000
万葉国際寮	¥50,000	¥224,000	¥448,000
創春寮	¥50,000	¥189,000	¥378,000
友光寮	¥50,000	¥225,000	¥450,000

主な設備:

Wifi、大浴場、トイレ、食堂、台所 (電子レンジ、冷蔵庫)、集会室、ラウンジ、和室、洗濯機・乾燥機

居室備品:

ベッド、洋服掛け、整理タンス、机、イス、本棚

留学生寮案内ページ

<https://www.soka.ac.jp/campuslife/dormitory/>

■修了生へのフォローアップ

本学留学生の同窓会組織「留宝会」に所属することができる。



■問合せ先

(担当部署)

創価大学 国際部留学生課

住所 〒192-8577

東京都八王子市丹木町1-236

TEL +81-42-691-8230

FAX +81-42-691-9456

E-mail ryugakusei@soka.ac.jp

創価大学ホームページ

<https://www.soka.ac.jp/>

創価大学 外国人留学生の受け入れ

<https://www.soka.ac.jp/admissions/department/international-students/>

日本語・日本文化教育センター

<https://www.soka.ac.jp/global/global-approach/japan-studies-center>



南山大学 (愛知県)

高度な日本語能力を身に付け日本社会への理解を深めるプログラム

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

南山大学は1946年に設立され、8学部18学科、大学院6研究科16専攻(うち1専攻は専門職大学院)の他、3研究所、9研究センターをもつ総合大学である。中部地方唯一の男女共学カトリック総合大学であり、「人間の尊厳のために」を教育のモットーとし、世界から選ばれる大学、世界に人材を輩出できる大学を目指した教育を行っている。

2) 教員・学生数等 (2025年5月1日現在)

○専任教員数 343名 非常勤講師数 434名

○学部・学生数等

学生数 10,139名

(内訳: 学部生 9,884名 大学院生 255名)

うち、外国人留学生数 139名

(内訳: 学部生 107名 大学院生 32名)

外国人留学生別科生 158名

○学部・大学院研究科

学 部: 人文学部・外国語学部・経済学部

経営学部・法学部・総合政策学部

理工学部・国際教養学部

大学院: 人間文化研究科・国際地域文化研究科

社会科学研究科・法学研究科

理工学研究科・法務研究科 (法科大学院)

② 国際交流の実績

海外協定校数 131校+3団体 (2025年度)

派遣交換留学生数 119名 (2025年度)

受入交換留学生数 103名 (2025年春学期)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2025年: 留学生数139人、

外国人留学生別科生数165名、日研生3人

2024年: 留学生数146人、

外国人留学生別科生数134名、日研生5人

2023年: 留学生数143人、

外国人留学生別科生数163名、日研生5人

④ 地域の特徴

[1] 東京や大阪、京都など日本の主要都市へ行くのに便利。

[2] 日本で4番目に人口の多い都市だが、東京や大阪に比べ生活費が安い。

[3] 都会にいながら窮屈ではなく、文化的施設や娯楽を楽しむことができる。

[4] 自然に囲まれ、少し足を伸ばせば、すぐに海や山を見ることができる。

[5] 自動車や航空産業など世界を代表する企業が集積している。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

コース名: 外国人留学生別科

(Center for Japanese Studies)

コースの特色:

[1] 日本語コースでは、6段階(I-VI)のレベル別コースを用意し、各学生の日本語能力にあった学習が可能で、読む・書く・聴く・話すの4技能の各習熟度の違いにも対応する。

[2] 将来のキャリア形成に役立つ各種日本語セミナー、日本の文化・社会等について英語による講義科目を設置し、単に日本語を学ぶということに留まらず、将来、研究や仕事に必要とされる日本語能力の向上や日本に対する理解を深めることをねらいとする。

[3] 書道や華道等芸術科目を通じて「日本」についての基礎的・専門的知識の習得を目指す。

[4] その他

各種フィールドトリップへの参加や交流スペースである多文化交流ラウンジ、学生TAによる日本語学習サポート(ジャパンブラザ)の利用により、日本語を使って交流を図りながら、授業以外の大学生活の中で、日本を学ぶことも重視している。

③ 受入定員

5名 (大使館推薦3名、大学推薦2名)

④ 受講希望者の資格・条件等

- (i) 日本語・日本文化に関係する分野を専攻する者、または他の専攻分野でも日本語履修に意欲のある者。
- (ii) 4.0 評価において 3.0 以上の GPA を修めた者または同等の者。

⑤ 達成目標

高い日本語運用能力を備えると同時に日本文化を深く理解する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月中旬 ～ 2027年5月下旬
（在籍期間：2026年9月1日～2027年5月21日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年9月 ～ 2027年5月

⑧ 研修・年間スケジュール

〈秋学期〉

9月中旬：渡日（2025年は9月6日）
入学式、オリエンテーション
クラス分けテスト、ウェルカムパーティー
10月： フィールドトリップ※
11月： 大学祭
12月： フィールドトリップ※
期末試験

〈春学期〉

1月： 春学期入学オリエンテーション
ウェルカムパーティー
2月： フィールドトリップ※
3月： フィールドトリップ※
5月： 期末試験、修了パーティー
5月下旬：帰国（2025年は5月28日）

※フィールドトリップ：学部学生との交流バス旅行等



⑨ コースの修了要件

- ・ 連続して在学する2学期間において、日本語科目（選択必修科目）を含めた通算28単位以上を取得すること。
- ・ 原則として、1学期に日本語科目8単位を含む14単位から18単位を履修する。
- ・ 履修科目について出席状況、課題提出状況および試験の結果を総合的に判断の上、成績を判定し、単位を付与する。
- ・ 修了者にはプログラム修了約1か月後に修了証明書を発行する。
- ・ 成績証明書の発行を希望する場合は別途、国際センター事務室に申し込む。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本学外国人留学生別科では、5つのカテゴリー（日本語科目、日本語セミナー科目、日本事情科目、オープン科目、芸術科目）において、様々な科目を提供している。日本語科目および日本語セミナー科目は日本語レベル毎に分かれ集中的に学び、日本事情科目やオープン科目は学部学生との共修の機会も提供している。

2) 研修・コース開設科目

		単位数	時間数※
[1]日本語科目	選択必修	8	800
[2]日本語セミナー科目	選択	2	100
[3]日本事情科目	選択	2	100
[4]芸術科目	選択	2	100
[5]オープン科目	選択	1 or 2	100 or 200

※時間数は1週間あたりの講義時間数（単位：分）

I) 選択必修科目

[1]日本語科目

学期初めに実施されるクラス分けテストの結果で下記のⅠ～Ⅵレベルのいずれかに配置され、レベルに応じた指導をおこなう。

日本語Ⅰ：日本語の重要基礎文法を定着させる。4技能をバランスよく伸ばし、日常生活の諸場面でも対応できる力を身につける。

日本語Ⅱ：日本語の基礎力を更に向上させ、長文読解も導入する。

日本語Ⅲ：上級の日本語コースへの準備。生教材の読解・論理的な文章の作成・討論等も行う。

日本語Ⅳ：語彙や表現力を伸ばし、更なる日本語4技能の充実を目指す。

日本語Ⅴ：日本語4技能の完成に加え、目的別の高度な日本語を身につける。専門書の読解、小論文作成なども行う。

日本語Ⅵ：日本語Ⅴを終えた学生のためのクラス。学生の主専攻分野を含む様々な学術領域の読み物を教材とし討論を行う。

II) 選択科目

[2]日本語セミナー科目

日本語で授業が行われる。初級・中級翻訳、講読（科学技術）、講読（社会科学）、ボランティアのための日本語、創作作文、ビジネス日本語、旅行業日本語、講読（日本文学）、古文、外国語としての日本語教授法入門、学術日本語作文、大学進学準備日本語 など

[3]日本事情科目

英語により講義が行われる。日本の文学、日本の文化、日本のポップカルチャー、日本文化と芸術、日本の宗教、日本の歴史、日本の社会、日本の経済、日本の経営、日本の政治、日本の外交など

（一部、学部学生との共修可能科目あり）

[4]芸術科目

華道・書道・茶道・踊り・漫画・武道

[5]オープン科目

学部生に開講されている科目の一部を学部生とともに別科生も受講することができる。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

社会で通用する日本語を実践するため、Business Japanese 履修者のうち数名を対象に職業体験プログラムを行う。
また、フィールドワークリサーチやボランティアアリングの授業も開講する。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本事情科目の一部は学部生も履修可能。
また、オープン科目は学部生に開講されている科目を留学生別科に所属する学生が履修することができ、日本人学生との共修が可能。日本の歴史、社会、経営、外交等幅広い分野で学部生に所属する日本人学生と日本に関する教養科目を学習することができる。

詳細については、下記シラバスを参照。

<https://www.nanzan-u.ac.jp/English/academics/cjs/ijp/course/>

⑪ 指導体制

日本語科目は留学生別科に所属する専任・非常勤講師が専門的な指導をおこなう。日本語科目担当教員は学生の出席、課題提出などをみながら日本語学習をきめ細かくサポートをおこなう。また、学生1名につき1名の指導教員が配置され、履修や日常生活等の相談に応じる。

各科目担当の指導責任者（教員）：
（※2025年10月1日現在）

担当	氏名
日本語科目・日本語セミナー科目担当	六川 雅彦
日本事情科目・芸術科目・オープン科目担当	小玉 安恵

留学生別科の授業運営や学生生活サポートは国際センターがおこなう。

国際センター責任者（教員）：
（※2025年10月1日現在）

役職名・担当	氏名
国際センター長	ショーン・オコネル
国際センター副センター長（留学生教学担当）	小玉 安恵
学生生活担当	小玉 安恵

■宿 舎

①ヤンセン国際寮（大学寮）

大学に隣接し、日本人学生と共同生活を行う国際学生宿舎。グローバル人材としての教養とスキルを身につける「教育プログラム」も提供。

宿舎費月額：60,000円
（教育プログラム費 別途 月額 1,000円）

②フォワイエ南山（大学寮）

外国人学生を対象としたワンルーム型宿舎。

宿舎費月額 60,000円
（入居費 別途 25,000円）

※大学推薦の場合は4か月分の宿舎費前納が必要となる。

○過去3年間の日本語・日研生の宿舎入居状況

2025年度受入3名：ヤンセン国際寮（2名）、
こじま留学生寮（1名）
2024年度受入5名：ヤンセン国際寮（3名）、
こじま留学生寮（2名）
2023年度受入5名：ヤンセン国際寮（5名）

■修了生へのフォローアップ

留学生同窓会Facebookで情報発信を行い、年に2回ニュースレターをWebページで発行する。



■問合せ先

<担当部署>
南山大学国際センター事務室

住所：〒466-8673
愛知県名古屋市昭和区山里町18

TEL： +81-52-832-3123（直通）
FAX： +81-52-832-5490
Email： cjs-office@ic.nanzan-u.ac.jp

<ウェブサイト>
南山大学ウェブサイト：
<https://www.nanzan-u.ac.jp/English/>
南山大学国際センター：
<https://office.nanzan-u.ac.jp/ncia/>



名古屋学院大学 (愛知県)

「敬神愛人」の精神に基づき、国際教養人材を育成する

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1964年に誕生した名古屋学院大学は開学当初より、フレデリック・チャールズ・クライン博士の理念「敬神愛人」の精神に基づく一貫教育の完成をめざし、人文、社会、自然科学の各分野にわたる総合大学を志向してきました。

以来、高度化し多様化する社会ニーズにこたえる新学部を設置を図り、半世紀に及ぶ歴史のなかで、9学部を有する中部圏屈指の総合大学に成長。人間と社会に密着した多様な領域の研究と活動を通して、真理に対する真摯な姿勢と、その探求への積極性を育て、人間愛をもって、自らの成長を社会に役立てることのできる心豊かな「国際教養人」の育成を進めています。

学 部 生： 6,282名
大学院生： 68名
専任教員： 152名
学 部 数： 9学部（経済、現代社会、商、経営、法、外国語、国際文化、スポーツ健康、リハビリテーション）
大 学 院： 2研究科（経済経営、外国語）
※統計は2025年5月1日現在

② 国際交流の実績

協定大学数：12カ国・地域、85大学
(2025年5月1日現在)

留学生数： 27名 (2025年5月1日現在)



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数 41人、日研生 0人
2024年：留学生数 54人、日研生 0人
2023年：留学生数 49人、日研生 0人

2024年度より文部科学省「日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加。

④ 地域の特徴

名古屋学院大学が所在する名古屋市熱田区は、熱田神宮を始め断夫山古墳や白鳥古墳、また江戸時代に街道一の賑わいをみせたといわれる宿場の面影を残すなど、歴史的文化遺産が数多く点在しています。

またデザイン都市名古屋のシンボルともいえる名古屋国際会議場が名古屋学院大学に隣接し、現在、国際交流の場として、国際会議・式典・コンサートなどに広く利用されています。

名古屋学院大学は「2013年度文部科学省地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」の採択をきっかけに地域の方と一緒に商店街活性化・観光推進・減災支援など、実に幅広い領域で様々な地域連携事業に取り組んでおり、地域と密着した国際教育を特徴の一つとしています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

名古屋学院大学留学生別科（日本研究プログラム）は、1989年に開設されました。本別科は学校教育法上、大学の教育の一環として位置付けられた修業年限1年の教育課程であり、海外諸大学から日本研究を目指す者（交換留学生等）や日本の大学・大学院への進学を希望する者に日本語及び日本事情に関する科目を教授しています。

- 日本語科目は、毎学期初めに実施するプレイスメントテストにより、学生それぞれの習熟度にあわせてクラス分けを行い、個々の日本語能力に適した学習を行います。
- 日本事情科目は経済や社会、経営など幅広い分野について日本語・英語で授業を開講しています。
- 日本語と日本文化を学ぶことができるよう、多彩な課外活動にも参加することができます。また、キャンパス内の「国際セミナーハウス」には学習や生活のサポートする日本人学生が一緒に住んでいます。
- 留学生は日本人学部学生と同様に全ての施設を利用することができます。

③ 受入定員

2名（大使館推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・ J L P T : N2以上に合格していること
- ・ 日本語又は英語で会話が可能であること。

⑤ 達成目標

- ・ 専門的なプレゼンテーションやニュース、ドキュメンタリーを聞いて内容を理解することができる。
- ・ 社会や生活の幅広い話題についての議論を理解し、自分の意見を述べるができる。
- ・ 様々な種類の複雑な文章を読んで、内容を理解することができる。
- ・ 論拠を整理と展開して、エッセイやレポートを書くことができる。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月18日～2027年7月15日

※ 都合により変更の可能性があります。

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年7月



⑧ 研修・年間スケジュール

- 8月下旬： 渡日（2026年は 9月10日予定）
10月： オリエンテーション
陶芸体験
11月： フィールドトリップ
国際交流キャンプ
ハロウィンイベント
12月： インターナショナルフードフェス
クリスマスイベント
1-2月： 冬季集中講座
4月： お花見
新入生交流会
5月： フィールドトリップ
6月： 日本文化体験イベント
7月： 修了式
7月下旬： 帰国

⑨ コースの修了要件

<日本語科目>

- 必修科目： 16単位（各学期 8単位）
選択科目： 2単位（会話練習 1単位/学期）
選択科目： 2単位（冬季集中講座）

日本語： 8コマ/学期（日本語Ⅰ-Ⅲ）
6コマ/学期（日本語Ⅳ）
合わせて学部科目1科目
2コマ/学期（日本語Ⅴ）
合わせて学部科目3科目

※ 日本語科目は「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」、「漢字」を基本とし、複数の教員がチーム制で担当している。

<日本事情科目>

選択科目： 8単位以上（各学期 4単位）

<そのほか>

- 日本文化研修を目的としたフィールドトリップを実施している（参加費無料）。これには必ず参加すること。
- コース修了者には修了証明書および成績証明書を発行する。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

- ・ 日本語科目は、毎学期初めに実施するプレイスメントテストにより、学生それぞれの習熟度にあわせてクラス分けを行い、個々の日本語能力に適した学習を行います。
- ・ 日本事情科目は経済や社会、経営など幅広い分野について日本語・英語で授業を開講しています。
- ・ 日本語と日本文化を学ぶことができるよう、多彩な課外活動にも参加することができます。

2) 研修・コース科目

I) 必須科目・内容

日本語1-5・・・学習者の日本語レベルに応じ8レベルに分けて実施

II) 選択科目・内容

<日本語科目>

日本語概論1、2 / 日本語会話a、b

<日本事情科目>

日本の宗教 / 日本の歴史 / 日本の文学
日本の経済 / 日本の経営 / 日本の社会
日本の政治 / 日本の観光 / 日本の文化
日本の国際関係 / 日本事情演習1、2
異文化間コミュニケーション / スポーツ1-3
インターンシップ / 日本事情総合1-5

※ 選択科目は上記科目より4科目以上を履修すること

3) 研修・コース科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

- ・ 留学生は日本人学部学生と同様に全ての施設を利用することができます。本学の国際教育拠点（グローバルリンクス）では地域と世界をつなぐをコンセプトとした各種プログラムを実施しており、留学生も参加することができます。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

会話練習・・・学部の日本語教員養成講座を受講している学生が講師となり、日本語会話を練習する

⑪ 指導体制

- ・須川精致（教授、留学生別科長 兼 国際センター センター長、専門：英語学）
- ・宮坂清（准教授、留学生別科学務主任、日本事情科目担当、専門：文化人類学、民俗学）
- ・阿部太郎（教授、留学生別科学務委員、日本事情科目担当、専門：経済学、理論経済学）
- ・末松大貴（任期制講師、留学生別科学務委員、日本語科目担当、専門：日本語教育、実践研究、質的研究）
- ・横川未奈（任期制講師、留学生別科学務委員、日本語科目担当、日本語科目コーディネーター、専門：日本語）



- ・日本語非常勤講師：10名
- ・日本事情非常勤講師：16名（学部教員を含む）

■宿 舎

国際セミナーハウスは外国人留学生・交換留学生のための寮・宿泊施設です。名古屋キャンパスしるとり内にあり、共有のラウンジもあるため、留学生以外の学生も気軽に訪問することができ、活発な国際交流の場となっています。また、毎学期「レジデントアシスタント」として日本人学生入居者も募集します。また国際セミナーハウスの他に国際セミナーハウスアネックスがあります。こちらの留学生寮はアパートメント式となります。

<宿泊費>

- 国際セミナーハウス
120,000円～140,000円 / 学期
90,000円～105,000円 / 冬季集中講義期間
- 国際セミナーハウス・アネックス
108,000円～152,000円 / 学期
81,000円～114,000円 / 冬季集中講義期間



International Seminar House



■インターナショナル・ラウンジ

インターナショナル・ラウンジ（i-Lounge）は名古屋学院大学の国際教育の拠点として2018年9月にリニューアルしました。

i-Loungeでは大きく「語学学習支援」「異文化理解」の機能があり、日本語だけでなく、英語や中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語、スペイン語、ポルトガル語など様々な言語を学ぶプログラムや、日本人との交流を通じ、日本文化や、留学生の母国文化を紹介する機会があります。



■修了生へのフォローアップ

修了生とは必要に応じて国際センターとメールを通じていつでもやり取りができるようにしています。

■問合せ先

<担当部署>
名古屋学院大学 国際センター

住所：〒462-0023
愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-25

TEL：+81-52-678-4093（直通）
FAX：+81-52-682-6824
Email：kouryuu-center@ngu.ac.jp

<ウェブサイト>
名古屋学院大学：
<https://www.ngu.jp/ijs/>



北陸大学 (石川県)

伝統文化が息づく古都「金沢」で、日本語力を身に付け、日本文化を学ぶ。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

北陸大学について

北陸大学は「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念に掲げ1975年に開学しました。

現在は薬学部、医療保健学部、国際コミュニケーション学部、経済経営学部の4学部7学科のほか、大学院に医療保健学研究科医療保健学専攻を有し、本学の使命・目的である「健康社会の実現」に向けた人材の養成を行っています。

1993年「国際交流センター」（国際交流室）を開設、1994年「留学生別科」を設置して以来、世界各国から留学生を受け入れています。

2025年に創立50周年を迎え、これからのグローバル人材育成のため、文理融合教育によるデータ分析スキルとデジタル技術を活用できる人材育成に努めています。



国際交流センターについて

国際交流センターは世界の大学とさまざまな交流を計画し、実施しています。現在、本学はアメリカ、イギリス、スペイン、ロシア、オーストラリア、モンゴル、タイ、インドネシア、マレーシア、カンボジア、中国、韓国の大学と協定を締結し、ニュージーランド、ドイツの大学とは友好校として北陸大学の学生を派遣したり、姉妹校からの学生を受け入れたりしています。

また、国際交流センターでは外国人を含むスタッフが、語学を勉強するときのアドバイスをしたり、海外の文化や生活情報、海外旅行や留学といった実践的なことの相談にも応じています。海外留学に関しては、北陸大学が主催するものだけでなく個人で行ける留学の情報も提供しています。

② 国際交流の実績

海外姉妹校・友好校等：75

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数 283人、日研生 4人（大使館推薦：3人、大学推薦：1人）
2024年：留学生数 265人、日研生 5人（大使館推薦：4人、大学推薦：1人）
2023年：留学生数 226人、日研生 4人（大使館推薦：3人、大学推薦：1人）

④ 地域の特徴

金沢市は石川県の県庁所在地であり、人口約46万人の地方都市です。伝統と現代が調和する魅力的な街であり、歴史ある城下町の風情が今も残り、兼六園や武家屋敷、茶屋街などで日本文化を身近に感じることができます。北陸新幹線開通後は東京からのアクセスも向上し、国立工芸館や21世紀美術館など、国内外から注目を集める観光地の一つとなっています。四季の美しい自然とともに、学びと生活の両方を豊かに過ごすことができる街です。





■ 研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修
日本語能力の向上のための研修を主とし、補助的な日本事情・日本文化に関する研修を行うもの。

② 研修・コースの特色

留学生別科では、大学や大学院への進学を目指す留学生、日本語力の向上や日本体験を目的とする留学生を対象に、授業を行っています。日本語のレベル別にクラスが分かれていて、午前は日本語を総合的に学ぶ授業、午後は日本文化や日本語能力試験対策、大学院進学のための研究計画書等の授業を行っています。

③ 受入定員

10名（大使館推薦 5名、大学推薦 5名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験N4相当以上の能力があることが望ましい。

⑤ 達成目標

・入学時の語学力に応じて、N3～N1相当の学力を修得する。

・日本の社会や文化に対する理解を深め、自分の言葉で説明できる。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年9月中旬～ 2027年8月下旬
（在籍期間：2026年9月14日～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月	渡日 秋学期入学式（2025年は10月6日） 秋学期開講
10月	学園祭
11月	日本文化体験活動（秋季研修）
12月	日本語能力試験 日本語コンテスト 冬休み
1月	秋学期期末試験
4月	春学期開講
5月	日本文化体験活動（春季研修）
7月	日本語能力試験 日本語コンテスト 春学期期末試験 ビーチデー
8月	修了式（8月上旬）

時間割例

	1時間目 (9:15～10:45)	2時間目 (11:00～12:30)	3時間目 (13:20～14:50)
月	日本語Ⅴ（文型読解）	日本語Ⅵ（総合演習）	特講Ⅴ（文法）
火	日本語Ⅶ（会話読解）	日本語Ⅵ（文章表現）	文字語彙Ⅱ（漢字）
水	日本事情Ⅱ	日本事情演習Ⅱ	日本語Ⅴ（文型読解）
木	日本語Ⅴ（文型読解）	日本語Ⅵ（文章表現）	日本語Ⅶ（総合演習）
金	特講Ⅳ（文型読解）	日本語Ⅶ（会話読解）	



⑨ コースの修了要件

研修期間1年で必修・選択科目を合わせて30単位以上取得した留学生について、留学生別科修了証書及び成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

4技能（読む・聞く・話す・書く）に分かれた科目の他に、日本語を総合的に使う科目があります。また文化を学んだり体験したりする科目もあります。その他、各自の目的に合わせて、漢字、能力試験対策、大学院進学のための研究計画書作成の科目が用意されています。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

・日本語科目 9コマ、12,150分

読む・書く・話す・聞くの4技能をバランスよく学びます。また各種の試験対策の授業もします。

・日本事情 1コマ、1,350分

日本の文化について勉強します。茶道や金箔工芸など体験型の授業も行う他、研修旅行にも行きます。

・日本事情演習 1コマ、1,350分
日本で生活するうえで必要な各種手続の方法を説明したり、生活上の相談をします。

Ⅱ) 選択科目

・文字語彙／研究計画書作成／資格日本語 (N1試験対策)／専門科目 各科目90分／1週間
漢字学習や語彙を増やしたい学生には「文字語彙」、大学院進学を目指す学生には「研究計画書」、N1を目指す学生には「資格日本語」等、目的や興味に応じた科目を用意しています。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流の参加出来る科目及びその具体的な内容

・日本事情 90分/1週間
茶道、華道体験、湯涌温泉足湯体験と氷室見学、金箔工芸見学と体験、和太鼓体験など。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

- ・日本語Ⅶ(会話聴解)
学部生の外国語クラスとの交流活動を行う。
- ・国際交流イベントの開催



⑪ 指導体制

日研究生は、国際交流センター・留学生別科の所属となります。国際交流センター所属の教員が指導教員として履修や研究の指導、日本での生活のサポートをします。

横田 隆志 教授
佐々木 技好 教授
友高 美雪 講師ほか

■宿 舎

大学の寮または大学周辺のアパートを紹介いたします。また、石川県などが運営している留学生会館もあります。

大学紹介のアパートの家賃は約25,000～35,000円／月です。また、入居時には、手続費として家賃の1か月分、敷金として60,000円が必要です。アパートの保証人には大学になります。

生活費は、家賃込みで約80,000／月かかります。

■修了生へのフォローアップ

FacebookにおいてHokuriku University Study Abroad Facebook Pageを公開しています。本プログラム参加者が随時写真を載せながら近況を報告。本プログラム参加者は当サイトに登録できるようにし、本プログラム終了後の様子をリアルタイムで確認できます。

■お問合せ先 (日本語・英語・中国語対応可)

<担当部署>

北陸大学国際交流センター・留学生別科

住所： 〒920-1180
石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地

TEL： +81-76-229-2626 (直通)

FAX： +81-76-229-0021

Email： iec@hokuriku-u.ac.jp

<ウェブサイト>

北陸大学留学生別科：
www.hokuriku-u.ac.jp/departments/jlc/index.html

北陸大学：

<http://www.hokuriku-u.ac.jp/>





愛知淑徳大学 (愛知県)

生きた日本語を学び、日本語で世界を広げよう

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

愛知淑徳大学は1975年に女子大学として開学しました。大学創立20周年となる1995年には時代の変化・社会の多様性に応じるため、男女共学に移行し「違いを共に生きる」という理念のもと、男女の性差だけでなく、国籍の違いを越えて、外国人留学生や年齢や世代の異なる社会人を受け入れるようになりました。現在では、12学部6研究科、留学生別科を擁する総合大学に発展し、毎年9千人近い学生がともに学んでいます。

本学には、星が丘キャンパス（名古屋市）と長久手キャンパス（長久手市）の2キャンパスがあります。長久手キャンパス内には外国人留学生の宿舎として国際交流会館（通称：アイハウス）が設置されています。

留学生別科は星が丘キャンパスにて開講されています。



② 国際交流の実績

【留学生在籍数】44人（内留学生別科生24人）

【大学間交流協定校】21カ国・地域53大学

※いずれも2025年10月1日現在

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数（全学）71人、日研生4人

2024年：留学生数（全学）51人、日研生1人

2023年：留学生数（全学）49人、日研生4人

※留学生数は各年度在籍学生数のため、複数年度在籍している学生については重複がある。

④ 地域の特徴

名古屋市は230万人を超える人口を擁し、大都市としての利便性を備えつつも東京や大阪ほどは混んでおらず、住みやすい都市です。日本の中央に位置しているため、東京、大阪、京都、奈良へも短時間で行くことができます。

留学生別科がある星が丘キャンパスは、名古屋市地下鉄東山線「星ヶ丘」駅徒歩3分とアクセスもよく、駅周辺には飲食店や商業施設も充実しています。名古屋駅、栄駅など名古屋市の中心部へも乗り換えをせずに行くことができます。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

【コース名】

日本語・日本文化研修コース

【コースの特色】

「生きた日本語」を学ぶための場として1992年に設立されました。少人数クラスで一人ひとりのニーズに可能な限り対応する授業を行っています。

授業にはレベルに応じた日本語を学ぶ日本語科目と、実践や体験を重視した日本文化科目があります。上級レベルの学生は、所定の学部科目の履修もあり、日本人学生と共に学ぶ機会が提供されています。

③ 受入定員

4名（大使館推薦3名、大学推薦1名）



④ 受講希望者の資格、条件等

- 1) 最低12年の正規の学校教育を修了し、大学入学資格すべてを満たしていること。または、これに準ずる資格を有することが必要です。
- 2) 最終学歴校の成績が100点満点中、平均75点以上であること。または、GPA4.00のうち2.75以上を取得していることが必要です。

⑤ 達成目標

- ・「聞く・話す・読む・書く」の4技能を通して、基礎的な力から語彙力・表現力を伸ばし、自分の考えを日本語で適切に表現できるクリエイティブな力をつけること。
- ・併せて日本事情・日本文化に関する理解を深めること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

秋学期：2026年9月上旬～2027年1月下旬
（在籍期間：2026年9月1日～2027年3月31日）

春学期：2027年4月中旬～2027年8月上旬
（在籍期間：2027年4月1日～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年9月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

【2026年秋学期】

- ・8月 プレイメントテスト（オンライン）
- ・9月上旬 渡日、オリエンテーション
- ・9月下旬 授業開始
- ・12月 冬季休業（12月下旬～1月上旬）
- ・1月 秋学期授業終了、定期試験



【2027年春学期】

- ・4月 春学期授業開始
- ・7月 春学期授業終了
- ・8月 定期試験、帰国

⑨ コースの修了要件

以下の3条件を満たすと修了証書が与えられ、成績証明書も発行されます。早期終了は原則不可ですが、ご希望の場合はご相談ください。

- ①日本語・日本文化研修コースに2学期在籍すること
- ②各学期に16単位以上を修得し、合計32単位以上を修得すること
- ③各学期に修得する単位には、日本語科目を8～16単位（レベルにより異なる）を含んでいること

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴
各クラス原則として、1週間に午前中4時間の会話や視聴解の授業、6時間の読解・作文の授業の合計10時間（日本語Ⅰ・Ⅱは12時間）と午後90分の日本語演習があります。演習では、午前中に学習した日本語を使った様々なクラス・アクティビティを行います。

日本語Ⅰ～Ⅳのクラスでは、聴解練習の授業も設けられています。
カリキュラムの一部に学部科目を組み込み、日本人学生と共修できる機会を設定しています。

2) 研修・コース開設科目

Ⅰ) 必須科目

日本語能力を高めることができるよう、少人数制をとっています。レベルに合わせて履修する授業・時間数は異なります。



総合	「話す、聞く、読む、書く」4技能の力を総合的に伸ばします。
聴解	レベルに応じた「聞く」力をつけます。
会話	様々な場面、トピックに合わせた「話す」力をつけます。
読解	様々なタイプの文章を読み、「読む」力をつけます。
作文	レベルに合わせて適切に「書く」力をつけます。
演習	スピーチ、ディスカッションの練習をします。
視聴解	日本の社会事情について動画で内容を理解し、それに対する意見をまとめ、発表する練習をします。

Ⅱ) 選択科目

体験型の日本文化科目を実施しています。各科目1週間1回90分の授業です。

【華道（2単位）】

毎週その時季にあった花を生けることで、日本文化の理解に欠かせない季節感についても学ぶことができる授業です。

【書道（2単位）】

紙、筆、墨を使い、簡単な線の引き方、墨の濃淡、潤渇の基本を習います。ひらがな、漢字のはねやはらい、書き順等に注意をはらいながら書いていきます。



3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

【CCCキズナプロジェクト(2単位)】

「まち」の活性化や地域社会が抱える課題に対して、実際にアクションを起こしていくプロジェクト型の授業です。行政や商店街、企業、NPOなどと連携して問題解決にチャレンジします。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

※クラスによって履修できる科目が違います。

【Japanese Popular Culture(2単位)】

海外で日本の文化がどのように、なぜ人気になっているのかを学びます。

【日本語教育入門(2単位)】

日本語や日本語学習者、教授法や教材、日本語教育の関連分野について講義を行います。

【ケーススタディ言語11(日本語学)(2単位)】

日本語を日本語使用の実態に基づいて、自分で分析することを通してとらえ直します。

【コミュニケーション論1(コミュニケーション論入門)(2単位)】

生活におけるコミュニケーションの果たす役割の理解を深めます。

【交流文化4(多文化共生)(2単位)】

人種・世代・性別など多様な価値観が混在している多文化社会における共生の問題を考察します。

⑭ 指導体制

日本語の授業は経験豊富な複数の教員がチームを組んで進めていきます。複数の教員が担当することで、多角的に日本語が習得できます。また、演習では一人ひとりの習熟度や必要に応じた指導も行うことで日本語の力を伸ばすようにしています。

■ 宿 舎

【国際交流会館(通称:アイハウス)】

アイハウスは長久手キャンパスに設置された、学生寮を含む多目的施設です。1階にはセミナー室、和室、茶室、多目的ラウンジ、調理室があり、2・3階が留学生の生活する寮になっています。

アイハウスには管理人が常駐しているほか、日本人レジデントアシスタントも共に生活し、留学生のサポートにあたっています。

※門限: 10:00PM

※禁煙・飲酒不可

※定員があるため、希望者全員が大学の宿舎に入居できるとは限りません。

【居室】

留学生の居室はすべて単身室です。

〈面積〉12.86㎡

〈部屋数〉2階29室、3階24室

〈設備〉ベッド、机、椅子、デスクランプ、冷蔵庫、エアコン、収納棚、カーテン、インターネット回線

【共同施設】

寮生の共同施設として、キッチン、リビング、ダイニング、スタディールーム、ミニラウンジ、シャワールーム、トイレ、ランドリー(洗濯機、乾燥機)、自動販売機があります。スタディールームには、共同で使えるノートパソコンとプリンターが設置され、リビングではWiFiの利用が可能です。

【周辺環境】

長久手キャンパス周辺には、スーパーマーケット、飲食店、衣料品店等があり、大変便利です。大学の正門からは名古屋市営バスが出ており、最寄りの地下鉄の駅まで15~20分、名古屋市中心部の栄までは地下鉄に乗り換えて30分で行くことができます。



【居室使用料】

保証金:(入居時のみ)40,000円

居室使用料:月額20,000円

維持管理費:月額5,000円

電気代:実費

清掃料:(退去時のみ)5,000円

【留学生サポート】

日本人学生ボランティアによる、留学生バディ制度があります。星が丘キャンパスにはグローバルラウンジと呼ばれる多言語・多文化交流ラウンジがあり、各種交流イベントが行われています。

■ 修了生へのフォローアップ

進学を希望する留学生に対して、教員、スタッフによる相談が受けられます。

【修了後の進路例(キャリアパス)】

- ・大学・大学院への進学
- ・帰国後 就職先企業にて日本語翻訳担当
- ・専門学校進学

■ 問合せ先

〈担当部署〉

愛知淑徳大学国際交流センター

住所: 〒464-8671

愛知県名古屋市千種区桜が丘23

TEL: +81-052-783-1590(直通)

FAX: +81-052-783-1578

Email: goglobal@asu.aasa.ac.jp

〈ウェブサイト〉

愛知淑徳大学国際交流センター:

www.aasa.ac.jp/institution/international

愛知淑徳大学:

www.aasa.ac.jp



京都外国語大学 (京都府)

歴史都市・京都で日本語と日本文化を学ぶ留学生のためのコース

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

京都外国語大学には、外国語学部・国際貢献学部の2つの学部の他、大学院、短期大学があります。日本の古都・京都にあり、1947年の創設以来、建学の精神である「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」を具現化し、真の国際感覚と異文化を理解し共生できる能力を備えた人材を養成しています。

本学では19言語の教育を提供しており、実践的な外国語運用能力に加え、多文化理解、国際関係、地域研究など、現代社会が直面するグローバルな課題を深く学ぶためのカリキュラムが豊富に用意されています。

② 国際交流の実績

留学生の派遣、受け入れなどを目的として40か国・地域の169大学と協定を結んでいます。
(2025年3月時点)



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数128人、日研生5人
2024年：留学生数148人、日研生6人
2023年：留学生数149人、日研生10人

④ 地域の特徴

京都は日本の文化・伝統の中心地であり、学術・国際交流の拠点としても世界に知られています。かつて日本の首都であったこの街は、約1200年の伝統と最先端の近代的な要素が調和しており、街の全てが学びの場となります。常に多くの旅行者や外国人留学生を受け入れてきた京都は、多様な価値観が交差する真にグローバルな環境です。この地で日本の文化・社会を肌で感じながら日本語を学び、異文化理解を深めることは、今後の専門分野での研究のための基盤を築くことにつながると言えるでしょう。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修
留学生別科日本語研修課程は、本学または他の日本の大学に進学を希望する外国人と国際交流協定校からの交換留学生を対象に設けられた1年の課程です。日本語能力の向上のための研修を主として、補助的な日本事情と日本文化に関する研修を行います。

② 研修・コースの特色

日本語と日本文化を学ぶ留学生のためのコースです。世界各国から集まる留学生を対象に、9段階のレベルに応じたクラスできめ細やかな日本語指導を展開しています。日本の伝統文化に関する科目の課外学習のほか、学内外での日本人学生との交流や留学生同士の多文化交流も盛んに行われ、留学生たちは全身で日本を感じて楽しみながら日本語能力の向上に励んでいます。

③ 受入定員

10名（大使館推薦9名、大学推薦1名）



④ 受講希望者の資格、条件等

- ・外国籍を有する18歳以上の者
- ・外国において、学校教育における12年の課程を修了した者
- ・上記の教育機関所在国の大学入学資格を有する者
- ・日本語能力試験（JLPT）N3相当以上（N2以上が望ましい）の日本語能力を保持している者

⑤ 達成目標

- ・「聞く・話す・読む・書く」の4技能を通して日本語を教授し、レベルに応じた日本語の知識の習得とコミュニケーションの運用能力を高めること
- ・日本事情・日本文化に関する理解を深めさせること

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月上旬 ～ 2027年8月初旬
（在籍期間：2026年9月20日 ～ 2027年9月19日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年7月



⑧ 研修・年間スケジュール

8月下旬 渡日（2025年度は8月25日）

9月上旬 オリエンテーション
プレイスメントテスト

9月下旬 秋学期授業開始

11月初旬 外大祭

12月下旬 冬期休暇開始

1月初旬 冬期休暇終了

1月下旬 秋学期授業終了

4月初旬 オリエンテーション
プレイスメントテスト
春学期授業開始

7月下旬 春学期授業終了
修了式

8月上旬 帰国（2025年度は8月10日）

⑨ コースの修了要件

9月から1年間（2学期）在学し、必修科目20単位（20科目）と選択科目6単位（6科目）以上、合計26単位以上の修得が必要です。

1つの授業（1コマ）は100分で、1学期あたり14週です。

修了者には、在籍期間終了後（9月末～10月初旬）に修了証書および成績証明書（日本語）を郵送します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

必修科目、選択科目ともに習熟度別の少人数教育で、日本語の総合的能力の向上を目指します。

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目 総合日本語（週10コマ）

総合日本語は、各学期開始前に実施されるプレイスメントテストの結果によって、9レベル10クラスにクラス分けが行われます。

このクラスをもとに、春学期10単位＋秋学期10単位＝合計20単位（1科目1単位）を修得する必要があります。

II) 選択科目・内容

必修科目を補うものや学習者の目的に応じた科目を数多く開講しています。

選択科目は、1学期あたり3単位（1科目1～2単位）以上修得しなければなりません。

開講科目は年度によって異なりますが、概要は以下の通りです。

作文、漢字、文法に関する授業

習熟度別に、各能力の向上を目指して集中的に学びます。

試験対策に関する授業

JLPT（日本語能力試験）やEJU（日本留学試験）の準備のためのクラスです。

日本の伝統文化に関する授業

書道、茶道、華道等の実習です。

日本の文学、歴史、経済等

現代の日本の事情はもとより、多面的に各分野の学習を深めることでより豊富な知識を身につけます。

※授業科目の詳細については、本学HPよりWebシラバスをご参照ください。

Webシラバス

<https://www.kufs.ac.jp/news/detail.html?id=oXIFwbIL>

「開講年度 2022年度以降」> [授業管理部署]欄で [留学生別科]を選択してください。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容
日本の伝統文化に関する授業において、課外授業を実施しています。

茶道

茶道資料館見学や修了茶会に参加することができます。

狂言

学外の施設で実際に狂言を鑑賞することができます。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

以下の選択科目は、学部生と共に受講することができます。

Japan seen through Animations

アニメやマンガを通して、日本文化や日本人の考え方を学びます。

Intercultural Communication in Practice

国籍の異なる学生間の討論を通じて、互いの社会や文化に関する理解を深めます。

模擬国連

模擬国連会議に参加して国連と現在の国際問題に対する理解を深め、コミュニケーション能力を養います。



課外活動には、留学生の皆さんも参加可能な部活がたくさんあります。剣道部、柔道部、茶道部、能楽部など、日本文化を体験できる部活動もあります。

クラブ活動・課外活動一覧

<http://www.kufs.ac.jp/universitylife/extracurricularactivities.html>

日本人学生との様々な交流イベントや、学生スタッフによる留学生生活のサポートなど、気軽に相談できる環境を提供しています。

国際部Student Ambassador (S.A.)

<https://www.kufs.ac.jp/interchange/support.html>

学内の交流イベントやBuddy制度等、気軽にコミュニケーションができる環境を提供しています。

外国語自律学習支援室 (NINJA)

<https://www.kufs.ac.jp/rcmme/ninja.html>

⑪ 指導体制

各レベルにアカデミックアドバイザーを配置しています。

学習上の疑問や課題、学生生活の中で生じる諸々の問題について、適切な指導・助言を行っています。

■宿 舎

本学の留学生宿舎等を手配します。

室数に限りがあるため、割り当ては本学が決定します。

留学生宿舎は家具付きのシングルルームです。主な設備は、机・椅子、ベッド、バス・トイレ、ミニキッチン、冷蔵庫などです。エアコンも完備しています。管理人が常駐しています。

宿舎費は2回（学期ごと）に分けて支払います。

クレジットカードでの支払いです。

・1回目（秋学期分）

渡日前の支払いです。7月頃が目安です。

・2回目（春学期分）

渡日の翌年3月頃が目安です。

宿舎費参考：1学期につき¥378,000～¥420,000程度

※月払いはできません。

■修了生へのフォローアップ

修了後に、本学をはじめとする日本の大学や大学院等の高等教育機関へ進学を希望する学習者のために、進学相談・進学指導等、個別にサポートを行っています。

日本語研修課程修了者に対して、専任教員と国際部担当職員が情報収集などを行っています。



■問合せ先

<担当部署>

京都外国語大学 国際部

住所：〒615-8558

京都府京都市右京区西院笠目町6

TEL : +81-75-322-6043 (直通)

FAX : +81-75-322-6243

Email : incoming_oips@kufs.ac.jp

<ウェブサイト>

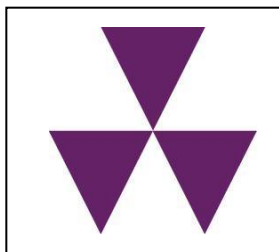
京都外国語大学日研生：

https://www.kufs.ac.jp/view/data/japanese_os/courseguide.pdf?211123

京都外国語大学

留学生別科日本語研修課程（日・英）：

https://www.kufs.ac.jp/en/faculties/overseas/index_ja.html



同志社大学 (京都府)

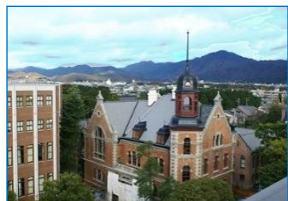
千年の都、京都で「志」を育む

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

同志社大学のある京都は日本列島のほぼ中心に位置しています。794年、京都は日本の首都に定められ、東京が首都になるまで、約1100年間に、日本の政治の中心であり、歴史・文化の中心でした。

古い史跡や町並み、文化などが数多く存在することから、日本で有数の国際観光文化都市として知られ国内外から多くの旅行者が訪れます。京都は伝統的な都市という魅力だけではなく、先端技術を持つ企業をはじめ、業界トップクラスの企業が集まるなど現在の日本の産業を支えている地域の一つでもあります。



[今出川キャンパス]



[京田辺キャンパス]

<新島襄の教育理念>

同志社大学の教育理念は「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の三つの柱からなっています。1875年、同志社は日本で最初のキリスト教主義の学校として、新島襄によって創設されました。新島は世界のあらゆる青年が真理を求めて自由に生き生きと学び、語り合い、友情の絆を作り上げる場として同志社を位置づけました。その精神は今日においても本学に脈々と受け継がれ、現在の国際交流ネットワークを築いています。

② 国際交流の実績

同志社大学は、人文科学系、社会科学系、理工系、スポーツ・健康科学系まで幅広い分野の14学部16研究科を有する総合大学で、学生数約29000名のうち約1400名を世界各国からの留学生が占め、海外との交流もますます広がりをみせています。

国際教養教育院は、留学生のための日本語・日本文化教育とグローバル教養教育、さらに国内学生のための国際教養教育を担う組織として、日本語科目や日本事情、日本文化を学ぶ科目を提供しています。また、海外の協定大学等からの短期留学生の受入れ、短期プログラムの実施等を担っており、世界各国からの留学生が国際教養教育院に所属して学んでいます。

<大学間協定数>

44ヶ国 213大学

(2025年6月現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

年度	留学生数(5/1在籍数)	日研生(年度内受入数)
2025	1401人	7人
2024	1375人	12人
2023	1414人	7人

④ 地域の特徴

今出川キャンパスは、京都御所の目の前という京都の中心に位置しています。日本事情科目・国際事情科目では生け花や茶道、書道、座禅、祭りや寺社・博物館などへの学外見学など、体験型の授業を多数提供しています。



1200年の歴史と伝統を誇る古都・京都の地の利を生かし、日本の伝統文化を本質的に理解することができる魅力的な科目を多数提供しています。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(b)主に日本語能力の向上のための研修
(補助的に日本事情・日本文化に関する研修を行う)

② 研修・コースの特色

※充実した日本語科目群で、日本語力の向上と、目的に応じた演習や文化理解まで、幅広い学びを実践

※一人ひとりの実力に応じて学べる9段階別クラス編成
※日研生対象「特別クラス」での学外授業や文化体験

(1) 日研生は原則として日本語学習を主目的とする学生を対象とした《集中コース》で「日本語」を学びます。入学者の日本語能力にはかなりの差があり、同じクラスで授業を行うと学習に無理が生じるため、一人ひとりの能力により9段階に分け、きめ細やかで丁寧な指導が可能となるよう配慮しています。さらに日本語能力試験とビジネスに関する日本語に主眼をおいた「演習科目」も提供しています。

(2) 日本語を中心とした多言語による日本の文化や社会に関する「日本事情科目」は、日本の言語・芸術・思想・宗教・歴史・社会・文化などに関する科目を設置しています。さらに、国際的な観点による「国際事情科目」を提供しています。

(3) 歴史と文化の中心である「京都」を生かした、日研生対象の「特別クラス」では、企業見学、祇園祭・西陣織機織り作業場の見学、和食作りや京町家訪問、生け花や茶道、能の体験など、様々な日本の伝統文化や社会を学ぶ機会も提供しています。

③ 受入定員

25名(大使館推薦 24名 大学推薦 1名)

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験(JLPT) N2程度以上の日本語能力を有すること。

⑤ 達成目標 (⑩に含めて記載)

⑥ 研修期間 (在籍期間)

2026年 9月 ～ 2027年8月

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

【秋学期】 (9月～3月)

9月上旬 渡日・日本語⁷ レースメントテスト
9月中旬 オリエンテーション
9月下旬 講義開始
11月26～28日 学園祭
12月下旬～1月上旬 冬期休暇
1月下旬～ 期末試験
2月中旬～ 春期休暇

【春学期】 (4月～8月)

3月上旬 日本語⁷ レースメントテスト
4月上旬 講義開始
7月下旬 期末試験
7月下旬 研究ポスター発表会
8月 歓送記念礼拝 (修了式)・帰国

⑨ コースの修了要件

所定の研修期間に学し、合計20単位以上を習得することを、コースの修了要件とします。



〔研究ポスター発表会〕



〔歓送記念礼拝 (修了式) 〕

⑩ 研修・コース科目の概要・特色 (⑤ 達成目標)

I. 必修科目

(1) 日本語科目

II. 選択科目

登録できる科目は、日本語学習段階により異なります。

(2) 日本語演習科目

(3) 日本事情科目 ※◎

(4) 国際事情科目 ◎

(5) 学部・研究科科目 ◎

※…現地、地域交流等の参加型科目を含む

◎…日本人学生との共修の機会がある科目を含む

I. 必修科目

(1) 日本語科目 10～22単位 (300～660時間)

1科目 30時間 (1単位) × 5～11科目 × 2レベル
各学習段階とも「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に習得する科目と、「読解」・「語彙」・「文章表現」・「口頭表現」の技能別科目から構成されています。

＜文型・基礎語彙・基礎漢字の習得目標＞

レベルは学期始めに行うブレースメントテストで決定します。

レベル	学習段階	文型の定着	基礎語彙	基礎漢字
I	初級前期	初級の基本的な文法	1500語	300字
II	初級後期	初級前半の定着 初級後半～中級の文法	2000語	500字
III	初中級	初級の文法事項の定着 中級の重要文型 約50	3000語	600～750字
IV	中級前期	中級の重要文型 約100	4000語	800字
V	中級後期	中級の重要文型 約200	6000語	1000～1200字
VI	中上級	中級の重要文型 約200 上級の重要文型 約50	8000語	1500字
VII	上級前期	中級の重要文型 約200 上級の重要文型 約100	10000語	2000字
VIII	上級後期	上級の重要文型 約100 高度な日本語の習得と 運用力を養成する	10000語	2000字
IX	超上級	より高度な日本語の習得と運用力の養成を目指す。		

II. 選択科目

(2) 日本語演習科目 1科目 30時間 (1単位) × 選択数

主として日本語能力別に日本語能力試験や日本留学試験等に備えた演習を行います。

※…現地、地域交流等の参加型科目

科目名	学習段階／目的	日本語レベル
日本語総合演習 A	日本語初級	I～II
日本語総合演習 B	日本語能力試験 N3	III～V
日本語総合演習 C	日本語能力試験 N2	IV～VI
日本語総合演習 D	日本語能力試験 N1	V以上
中級日本語文法概説 A/B	中級レベル日本語文法	IV～VI
上級日本語文法概説 A/B	上級レベル日本語文法	VI以上
※日本語特講演習	論文・研究発表	V以上
ビジネス日本語 A/B/C/D	ビジネスに関する日本語	I～IX

(3) 日本事情科目 1科目 30時間 (2単位) × 選択数

芸術・哲学・宗教・法律・政治・経済・歴史など幅広く日本の生活や社会について学ぶことができます。華道の実習や能楽など古典芸能を通して日本の伝統や文化を学ぶことは、日本を理解する上で大きく役立つ体験となります。

※…現地、地域交流等の参加型科目

◎…日本人学生との共修の機会がある科目

科目名	＜参考：2025年度開講科目＞
日本の文学 A/B	
日本の思想・宗教 1/2	
日本の歴史 1/2	
日本の社会 1/2	
日本の文化 1/2	
※ 日本の文化特講 A/B	
日本の教育	
日本の伝統と人間形成	
※◎ 日本の伝統と美 -いけばなを知る- / -いけばなを感じる-	
※◎ 日本の伝統と文化 -日本人の見た花の美しさ-	
※◎ 日本の伝統と文化 -着物-	
※◎ 日本の伝統と芸能 -雅楽-	
※◎ 日本の伝統と芸能 -仮名手本忠臣蔵を読む-	
※◎ 日本の伝統と能楽 -能楽を通してみる日本の伝統文化-	
日本の現代芸術	
日本の芸術 1/2	
◎ 日本とアジア 2	
日本の生活と社会 A/B	



〔日本の伝統や文化を体験する授業〕

(4) 国際事情科目 1科目 30時間 (2単位) × 選択数

宗教・歴史・ビジネス・メディアなど多様な分野を国際的な観点からとらえた専門性の高い内容の科目です。

◎…日本人学生との共修の機会がある科目

科目名	＜参考：2025年度開講科目＞
世界の歴史 1/2	
◎ 国際比較文化論	
◎ 国際比較メディア論	
◎ 国際ビジネスA/B/C	

(5) 学部・研究科科目

十分な日本語能力があると判断された場合には、学部や研究科の開講科目を履修することができます。

◎…日本人学生との共修の機会がある科目を含む

① 指導体制

日本語指導にあたるのは、海外や他の教育機関において豊富な日本語教育の経験を持つ、日本語教育学・日本語学・言語学専門のエキスパートです。

＜日本語指導教員 (2025年度)＞

・専任教員 6名 ・嘱託講師 約50名



[同志社大学 今出川キャンパス]

■日本人学生との交流

日研生は、学内の施設を利用することができます。「国際交流ラウンジ」や食堂では日本人学生と活発に交流がされています。日本語の勉強やスキルアップ、日本人の友達作りにもお勧めです。

自主的な学習施設「ラーニング・コモンズ」では、日本人学生と気軽にコミュニケーションができる環境を提供します。

<https://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/>



サークル活動も盛んで、参加可能なクラブやサークルがたくさんあります。

<https://www.d-live.info/>

さまざまな交流イベントも開催しています。

<https://www.doshisha.ac.jp/international/communication/event.html>

1. International Day

日本人学生と外国人学生との交流会です。

2. SIED企画イベント

SIED (シード=Student Staff for Intercultural Event at Doshisha) とは、学生が主体となり、国際交流イベントを企画・実施する組織で、日本人学生と外国人学生の国際交流イベントを、多数企画・開催しています。

https://ois.doshisha.ac.jp/international_exchange/sied.html



■宿 舎

留学生と日本人学生が共に生活し、学びあえる本学初の教育寮「継志寮」が2021年9月に開寮しました。1ユニットは留学生2名と日本人学生3名それぞれの個室部分と5名共有のリビングからなり、自然に交友関係が広がります。

「継志寮」以外にもいくつかの宿舎があり、日研生は研修期間中、同志社大学の留学生用宿舎に入居できます。



<https://student-support.doshisha.ac.jp/student-life/boarding-dormitory/education-dormitory.html>



■修了生へのフォローアップ

修了生の近況についてのフォローアップ調査では、本学での日本語や日本文化に関する学びをいかして、大学院に進学、日本語の教員になるほか、日系の企業に就職するなど、現在も日本と関わり続けている修了生が多く、様々な活躍の報告があります。

進学や就職で日本にいる修了生が多いので、先輩に薦められて本学を選択した学生も多く在籍しています。

また、2021年10月、修了生へ向けたニュースレター『つなぐ〜Doshisha Newsletter』を創刊し、年2回発行しています。最近の大学ニュースや授業紹介、修了生の声などを掲載して、繋がりを継続しています。



■問合せ先

同志社大学 国際教養教育院

ウェブサイト <https://cjl.doshisha.ac.jp>

＜担当部署＞ 国際教養教育院事務局

住所：〒602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学 弘風館5階

【TEL】+81-75-251-3240

【FAX】+81-75-251-3242

【E-mail】 ji-nbn@mail.doshisha.ac.jp

開室時間：月曜日～金曜日

9:00～11:30/12:30～17:00

同志社大学ウェブサイト

<https://www.doshisha.ac.jp>



神戸女子大学
KOBÉ WOMEN'S UNIVERSITY

神戸女子大学 (兵庫県)

KWU Program 国際都市神戸で学ぶ日本語、日本文化、古典芸能

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

神戸女子大学は、国際的な港町神戸市内に三つのキャンパスを持つ女子大学です。須磨キャンパス、ポートアイランドキャンパス、三宮キャンパスです。

三つのキャンパスには、文学部、家政学部、健康福祉学部、看護学部、心理学部、教育学部と大学院を備えています。

設立時から、世界平和と人類の福祉に貢献しようとする女性の育成を目指し、自立心、対話力、創造性の豊かな女性への教育を進めています。

留学生は、主に須磨キャンパスで、日本語・日本文化研修を行います。

1) 学生数

学部・大学院で約3千人の学生が学んでいます。



② 国際交流の実績

アメリカ、イギリス、中国、インドネシア、ドイツ、タイなどの大学と提携を結び、交換留学や留学制度を実施しています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数5人、日研生1人

2024年：留学生数5人、日研生1人

2023年：留学生数2人、日研生1人

④ 地域の特徴

神戸市は、国際的な港町で、兵庫県にあります。さまざまな国籍の外国人が多く住んでいるため、留学生には住みやすい町です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

日本語能力向上のための研修を主とし、補助的な日本語事情・日本語文化に関する研修を行うもの。

② 研修・コースの特色

コースは、留学生のための日本語クラスと、日本人学生との共通の科目から成り立っています。日本語は少人数クラスで集中して学ぶことができ、高いレベルの日本語力を身につけることができます。

また、古典芸能研究センターや古典芸能に関する授業で、能、文楽、歌舞伎などの古典芸能に触れることができます。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・コースの授業に参加できる十分な日本語力を備えていること（JLPT N2と同等レベルかそれ以上）。
- ・女子であること

⑤ 達成目標

日本語力の向上と日本文化、古典芸能への興味と親しみを増すことを目標とします。未取得者は、N1試験の合格を目標とします

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬 ～ 2027年8月下旬
（在籍期間：2026年9月1日～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年9月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月：下旬渡日（2025年は9月24日）

9月：オリエンテーション、授業開始

11月：創立記念日、コスモス祭（学園祭）

12月：下旬から約2週間冬休み

1月：中旬授業終了、春休み

5月：スポーツ大会

7月：すいか祭り、学修成果発表会

8月：修了式

8月：下旬帰国（2025年は8月28日）

⑨ コースの修了要件

- ・コースの修了には、必修科目24単位、選択科目6単位を含む26単位以上の単位の取得が必要です。
- ・コースを修了するためには、以下の科目から、必要な単位を取得してください。
- ・必修科目と選択科目を合わせて、1年間で規定の単位を取得した研修生に、修了証書を与えます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

能、文楽、歌舞伎などの古典芸能について学ぶこともできます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（10コマ、1050時間）

- ・内容・・・単位がある科目

a. 留学生のみが参加

日本語Ⅰ、Ⅱ・・・中級日本語を読む・書く
日本語Ⅲ、Ⅳ・・・中級日本語を聞く・話す

b. 日本人学生との共修

日本語教育特講Ⅰ、Ⅱ・・・外国人日本語学習者の音声、文法などについて学ぶ。
日本語日本文学演習Ⅱ・・・演習科目
日本語学概論Ⅰ、Ⅱ・・・日本語の基礎

・内容・・・単位がない科目

学外研修・・・能、文楽、歌舞伎見学、地域交流等の参加
学習成果発表会・・・研修成果の発表
卒業論文・・・指導教員の指導により、卒業論文（レポート）を作成します。作成した論文の内容は、学習成果発表会で発表します。

Ⅱ) 選択科目（6コマ、630時間以上）

・内容

日本語力に応じて、文学部、家政学部を中心に、全学部の科目が受講できます。

日本語教授法Ⅰ・・・日本語の教え方

日本語実習・・・日本語教育実習

言語学概論・・・言語学の基礎

日本語日本文学入門Ⅰ、Ⅱ・・・専門分野入門

外国語科目・・・英語、朝鮮語など

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

須磨地区で地域交流に参加したり、大学内でフィールドワークやワークショップなどの参加型の授業を受講したりします。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

「留学生のための日本語（日本語ⅠからⅣ）」以外の授業は、日本人学生とともに学修し、ゼミや学外研修にも参加します。

日本語教育特講Ⅰ、Ⅱ

日本語日本文学演習Ⅱ

日本語日本文学入門Ⅰ、Ⅱ

⑪ 指導体制

留学生には、それぞれ希望研究分野の指導教員をつけます。また、生活面は、国際交流推進事務室と日本人学生チューターがフォローします。

■宿 舎

本学学生寮とします。

■修了生へのフォローアップ

プログラム修了後は、「神戸女子大学留学生会」に所属し、メール等で指導教員や国際交流推進事務室と連絡・交流を継続します。

■問合せ先

<担当部署>

神戸女子大学 国際交流推進事務室
（須磨キャンパス）

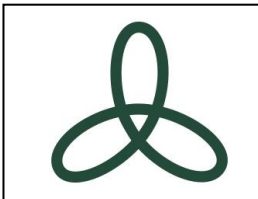
住所： 〒654-8585
兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2-1

TEL： +81-78-737-2095（直通）
FAX： +81-78-732-5161
Email： kokusai@yg.kobe-wu.ac.jp

<ウェブサイト>

神戸女子大学：
<https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/wu/>





山陽学園大学 (岡山県)

日本人学生との共修、体験学習を盛り込んだプログラム

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

1886年（明治19年）、山陽英和女学校として誕生した山陽学園は、現在、大学院、大学、短期大学、高校、中学校、短期大学付属幼稚園の6機関から構成される総合大学です。

大学は1994年に開学し、看護学部・総合人間学部（ビジネス心理学科、言語文化学科）・地域マネジメント学部の3学部、4学科で構成され、同じ敷地内には健康栄養学科及びこども育成学科を持つ短期大学、短期大学付属幼稚園もあります。大学、短期大学併せて学生数1,000人程度の小さな大学ですが、それだけアットホームは雰囲気、教員と学生の距離が近く、教員が親身になって相談に乗ってくれるという利点があります。

クラブ活動も盛んで、バレーボール部、卓球部、バドミントン部、軽音楽部、茶道部、児童文化部、日本語ボランティア部等が熱心に活動しています。日本語ボランティア部は、日本語・日本文化研修留学生や中長期留学生の日本語支援も行っており、日本での生活が順調に送れるようサポートもしています。

また、総合人間学部の言語文化学科・ビジネス心理学科には現在、中国、ベトナム、ミャンマー、アメリカからの留学生が在籍しており、留学生間の交流も盛んです。教職員も、アメリカやイギリスなどの欧米出身者、中国や韓国といったアジア出身者も在籍しています。

② 国際交流の実績

受け入れに関しては、韓国、台湾、ポーランド、ベトナム、フィリピンの大学間協定校や高校の姉妹縁組校から、中長期留学生、日本語・日本文化研修生を受け入れ、台湾や中国からはダブルディグリー生も受け入れています。派遣に関しては、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、フィリピン、韓国、台湾、ニュージーランド、ポーランドの協定校や姉妹縁組校に、中長期留学、語学留学、日本語教育実習、異文化理解実習で訪問をしています。

大学間交流協定校21校

姉妹縁組校2校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数 22人、日研生 1人

2024年：留学生数 25人、日研生 1人

2023年：留学生数 19人、日研生 1人

④ 地域の特徴

岡山県は「晴れの国、岡山」と言われるほど晴天日が多く、瀬戸内海の温暖な気候に恵まれた県です。フルーツ王国として昔から桃やぶどうが有名でしたが、近年では津山ホルモンうどん、蒜山焼きそば、日生の牡蠣のお好み焼きなどB級グルメ王国としても注目されています。その岡山県の南部に位置する、人口約70万人の県庁所在地・岡山市は、中国地方の交通の要で、四国・九州・山陰・関西のいずれの地方に行くにも便利なだけでなく、日本三大庭園の一つである後楽園など、歴史的な見所も数多くあります。また、岡山市内には、県立美術館、オリエント美術館、林原美術館など多くの芸術関連施設があります。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特徴

日本語だけでなく、日本文化も深く学ぶことができます。小規模大学の特徴を生かし、学部生と同じ講義を受けることで、日本人学生や本学に留学をしている他の外国人学生と交流を図ることができます。

また、講義だけにとどまらず、クラブ活動や地域のイベントに参加することで、日本で多くの体験を積むことができます。このように学業と体験を融合させている点が本学の特徴です。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）



山陽学園大学
本館（左上）
図書館（右下）



④ 受講希望者の資格、条件等

- ・ J L P T : N2に合格している。
または同等のレベルであること。
- ・ 日本と母国の架け橋人材に相応しい者。

⑤ 達成目標

- ・ コース修了者はJLPTのN2以上の取得、または前回より高い点数取得を目標とする。
- ・ 修了レポートを作成し、履修した授業内で発表を行う。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月中旬 ～ 2027年8月下旬
（在籍期間：2026年9月21日 ～ 2027年9月20日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

- 9月：渡日、オリエンテーション（9月第3週頃）
10月：日本語・日本文化研修生歓迎会
創立記念式典参加 学内イベント
「平井の丘の祭り」参加
大学祭「はなみずき祭」参加
11月：海外協定校との交流会参加
12月：クリスマス会参加
1月：ホームビジット参加
2月：西大寺裸祭り見学
3月：卒業式見学
4月：入学式見学 中長期留学生歓迎会参加
学内イベント「春の祭り」参加
5月：日本語学校見学
日本語ボランティア部「春の遠足」参加
6月：オープンキャンパス参加
7月：七夕会参加
8月：うらじゃ祭り見学 修了式
8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

- ・ 必修科目として12単位（以下、Ⅰの科目を参照）、選択科目として16単位（以下、Ⅱ、Ⅲの科目を参照）、合計28単位以上を取得すること。ただし、必修科目の履修時間が重複し、履修ができない場合、他の科目履修で代替ができるものとする。
- ・ 上記28単位以上を取得した場合、成績証明書の発行可

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

- 以下、3体系を主として実施する。
- ・ 日本語能力向上のための科目
 - ・ 日本事情及び日本文化を知るための科目
 - ・ 日本を体験するアクティビティ科目

2) 研修・コース開設科目

Ⅰ) 必須科目（90分×15回）計12単位
日本語C～H、日本語日本事情A・Bは1科目1単位、
文章表現法A・Bは2単位
内容

- ①日本語C・日本語D：聴解、会話、文法、語彙
- ②日本語E・日本語F：読解（N1）
- ③日本語G・日本語H：読解（生教材・新聞）
- ④日本語日本事情A：日本社会を知る。
- ⑤日本語日本事情B：日本文化を知る。
- ⑥文章表現法Ⅰ：レポートの作成について学ぶ。
- ⑦文章表現法Ⅱ：レポートを作成する。

Ⅱ) 選択科目（90分×15回）各2単位
以下の①～④から選択
内容

- ①日本を知る科目
日本史、日本文学特講、日本文化論など
- ②日本と諸外国の交流について知る科目
日中交流史、朝鮮の歴史と文化など
- ③日本語教育関連科目
日本語教育概論、日本語教授法、日本語文法論、日本語音声学など
- ④その他
心理系、ビジネス系、情報系、英語系科目

Ⅲ) 見学、地域交流等の参加型科目

（90分×15回）各2単位

内容 ①異文化理解演習Ⅰ ②異文化理解演習Ⅱ
その他、下記に挙げる学内外の活動にも参加し、
修了レポートで報告する。

- ・ 日本語ボランティア部での活動
- ・ その他のクラブ活動等参加
- ・ 大学祭の参加及び見学
- ・ 「春の祭り」等、学内イベントの参加及び見学
- ・ 日本文化体験 茶道、書道、投扇興など

Ⅳ) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・ 日本語C～H、日本語日本事情A・Bを除き、すべて日本人との共修科目となる。

異文化理解演習Ⅱでは大学祭で発表する「日本と海外の比較」について、日本人学生と共同で調査し、ポスター発表を行う。



ポスター発表の様子

ベトナム、ミャンマーの学生とともに
日本とタイの制服の違いについて発表

⑪ 指導体制

- ・共生グローバル推進センターWG委員、日本語担当教員が主となって指導します。
- ・日本語ボランティア部の部員（主に総合人間学部言語文化学科の学生）が交流やイベントの計画を立てます。日本語ボランティア部員を中心に日本語会話クラスを開催しています。
- ・必修科目の担当教員は以下の通りです。
 - ①日本語C・日本語D：山田勇人
 - ②日本語E・日本語F：佐藤雅代
 - ③日本語G・日本語H：班偉
 - ④日本語・日本事情A：山田勇人
 - ⑤日本語・日本事情B：古川徹也、田辺大藏
 - ⑥文章表現法Ⅰ：佐藤雅代
 - ⑦文章表現法Ⅱ：田辺大藏
- ・その他の科目は、山陽学園大学の常勤・非常勤講師が担当します。



日本語学習のサポートも受けられる
ラーニングセンター



留学生をサポートする共生グローバル推進センター

■宿 舎

留学生向けの学生寮はありませんが、大学の周辺には学生向けのアパートが数多くあり、大学で紹介することも可能です。

アパートの場合、ワンルーム（8畳）、キッチン、バス、トイレ（バスとトイレはセパレート）で4万円程度（共益費込み）で借りられます。入居時に、敷金や不動産屋に支払う仲介手数料、鍵の交換費用などがかかります。また、退去時には清掃代などがかかります。家具（冷蔵庫・洗濯機・マットレス）のレンタルも可能です。

大学から岡山駅まではバスでの移動が可能です。自転車は大学で用意します。



学長に入学の挨拶



大学祭「はなみずき祭」では、日本語ボランティア部の展示に参加

■修了生へのフォローアップ

現時点では、本学の教員が日本語・日本文化研修留学生の国を訪問することがあった場合、修了生に会って様子を聞いたり、定期的にメールで連絡を取り合ったりするなどしてフォローアップに努めています。

今年度は23年度に本学に日研究生として来日したベトナム人学生の協定校で異文化理解実習を行い、本学の学生との交流等も行った。

また、在学時に知り合った学生と個別にネットワークを構築している研修生もあり、学生からも情報を得ています。

■問合せ先

<担当部署>

山陽学園大学 共生・グローバル推進センター

住所：〒703-8501 岡山県岡山市中区平井1-14-1

TEL：+81-86-272-6254（代表）

FAX：+81-86-273-3226（代表）

Email：for.stu@sguc.ac.jp（センター）

yamada_hayato@sguc.ac.jp（担当教員）

<ウェブサイト>

山陽学園大学：<https://www.sguc.ac.jp>